

# 法輪大法

オーストラリア法会での説法

日本語版

李洪志



# オーストラリア法会での説法

李 洪 志

一九九九年五月二日、三日 シドニーにて

皆さん、こんにちは！（拍手）

気がつけば、シドニーに来るのはもう一、二年ぶりになります。前回は法会の際に来ました。当時の学習者はまだそれほど多くなく、大法を学んでいたのは主に華人に限られていました。現在では人も多くなり、しばらくの修煉を経て、皆さんが法に則って法を認識できるようになったと私は感じています。修煉の中で、皆さんはいろいろな疑問を抱き、解答を得たいと望んでいます。この時期に来れば、皆さんに対して本当にいくつかの問題を解答し、解決できると思い、時機も比較的適切なため、皆さんにお会いすることを決めました。

この期間の修煉を通して、オーストラリアの状況はかなり良くなっています。修煉の中で法理に対してまだ明確に認識できないところがありますが、状況は全体的にいいのです。今日は主に皆さんに会いに来ました。そのついでにいくつかの問題について話したいと思います。ですから、今日は説法の後で、皆さんの発言を聴くことが主な目的です。明日、私は午後の時間を利用して質問に答えます。

何か質問があれば、メモに書いて事務局に提出してください。それから私が皆さんにお答えします。

質疑応答するにあたって、一つ前提があります。私は法輪大法を修煉している学習者に修煉中の問題に対して解答するのであり、常人社会で起きた出来事や人類社会のそのほかの問題については解答しません。これらの質問には解答できません。現在、私は修煉者に責任を負うだけであり、いかなる国の政治、政策と法令にも触れるつもりはありません。私はこのことを行なう際、人々に責任を負わなければならない、同時に社会に対する責任も考慮に入れました。人類社会の発展には一定の定めがあり、その規律に従って発展しており、私はこういった事柄には触れたくありません。

これからいくつかの問題についてお話したいと思います。皆さんはすでに分かっていますが、私がどこで学習者に会っても、必ずあることについて話します。つまり、皆さんに本を多く読み、法を多く学んで欲しいということです。私がこの話をすると皆さんは分かっていると承知の上で、私はやはりこれについて話します。なぜなら、大法の中で向上したければ、本を読み、法を学ぶことが極めて重要だからです。今日私が伝えているこの大法をごく普通の気功とみなしてしまえば、大間違いです。健康な身体を手に入れたければ、病院で診てもらうか、その他の医療手段に頼ればいいのです。自分の健康だけを考えるのであれば、病院で治療してもらえばいいのです。私は病氣治療をするのではなく、皆さんを修煉の正しい道、光り輝く道へと導きたいのです。大法を利用し、お金のために病氣

を治療しようと思うなら、それはいけません。私は皆さんを最も純粹で清らかな道に導いています。修煉による真の向上を得たければ、法を学び続けなければなりません。

物質と精神が同一のものであると私は説きました。全世界の思想界では、長い間、物質が第一か、それとも精神が第一かという問題が議論されてきました。私は多くの例を挙げて、皆さんに、人間が頭を働かせて何かを考えている時に生じる思考そのものが物質の現れであることを説明しました。それでは、それは精神そのものではないのでしょうか？ つまり、精神と物質は同一のものです。宇宙全体において、最もミクロから最もマクロまで、最も小さいものから最も大きいものまで、すべての物質の粒子に、ある特性が存在しています。それは真・善・忍と言います。真・善・忍という宇宙の特性は、異なる次元の宇宙の中の一切すべてを制約しています。物質はまさにこういう精神的な特性の集合から成っているため、精神と物質は同一のものなのです。

一部の人々には「気功を練るなら気功だけをやればよく、自分の心性を高めたり、本を読んだりする必要はない」という間違った認識があります。これは私が皆さんに教えようとする最も肝心な問題です。それでは永遠に向上することができず、気功のいくつかの動作をただけでは病気を治すこともできません。これは中国大陸の多くの普通の人々でも知っていることです。法を学ばず、本を読まなければ、その中の道理を知ることはできません。また、あなたの道徳を高め、心性を好転させ、良い人間、さらに良い人間になる

ようにすることはできません。そのため、あなたは病気に罹ることがあります。人間は皆こうなのです。人間である以上病気に罹るのです。常人を超えて、初めて病気に罹らなくなります。いくつかの動作を練習するだけでは、常人を超えることはできません。その法理が本当に分かり、あなたの思想と境地が高まり、さらに良い人、常人を超える良い人になれば、あなたは超常的な人になり、普通の常人が罹るような病気に罹らなくなるはずです。このような道理です。人間がさらに良い人になり、現在の普通の常人を越えて、初めて本当に病気に罹らなくなると話しました。それでは、修煉してさらに高い境地に到達しようとするれば、これよりさらに厳しく要求しなければならぬのではありませんか？ 病気がなくなったからといって、高い境地で修煉している人になったとは言えません。それは、ただ常人の道德水準を超えた人になったにすぎません。私は皆さんに常人を超える人、さらに基準の高い人、つまりさらに良い人、道德心がさらに高尚な人になって欲しいのです。このようにして、初めて修煉して高い次元に到達することができます。

現在、華人以外のその他の民族の学習者は、法を学ぶことをあまり重視せず、理解していません。先ほどの私の話を聞いて分かったかもしれません。気功の手法は修煉の補助的な手段にすぎず、決して決定的な作用を働くものではありません。心性が向上せず、境地がさらに高まらなければ、いくら動作をしても向上できません。心性が高い基準に達して初めて、あなたは向上でき、病気がなくなるのです。さらに高い基準、厳しい基準で自分に要求するとき、よ

うやく常人を超える人間になります。その時になると、あなたはすでに常人ではなくなります。人間が常人社会において考えていること、行なっていることを皆さんも目にしましたが、すべて自分のため、自分の身内のためのものであり、極めて利己的で、ひいては利益ばかり図るものです。しかも、現在は道徳が非常に退廃している時期です。あなたは常人と同じように、ただ動作を練るだけで病気が治ると思いますか？ 全くあり得ないことです！ あなたは常人と同じく、動作を練るだけで超常的な人間になれるでしょうか？ 決してあり得ないのです。ですから皆さん、必ず本を読んでください！ なぜなら、あなたの精神の境地、思想がそれほど高い基準に達していなければ、あなたは病気が治らず、高い境地に到達することもあり得ないからです。これが私が皆さんに本を多く読むようにと言った理由です。本を読むことの必要性を説きました。

法は皆さんの異なる次元での向上を指導できます。『轉法輪』は、修煉の系統的な本であり、極めて重要です。修煉者かどうにかかわらず、『轉法輪』を読めば、どのように人として振る舞うべきか分かるはずです。今日の人類はいかなる道徳基準にも制約されず、伝統と古来の観念に逆行しています。人間は目の前の現実にとらわれればとられるほど、人間の本質、最も先天的で最も良いものを放棄していることになります。道徳に制約されない人間は思うように行動してしまう恐れがありますが、それではいけません。人類の腐敗墮落が原因で、人類はすでに非常に危険な境地に晒されています。これからの説法の中で私はこれらのことについて説明し

ます。

いくつかの具体的なことについてお話します。常人の中で修煉しているとき、往々にして多くの執着心を取り除くことができません。これから修煉の具体的なことに言及します。多くの人はどうしても自分の執着を放棄せず、甚だしい場合、自分の執着で心がかき乱され、理性が明確でなくなってもかかわらず、本人はまだそれに気づかないのです。千百年来、修煉は一体どのように修めるべきかを本当に説明した人はいませんでした。すべての人は修煉のときに坐禅することを知っています。中国の田舎の年配の女性はいつもオンドルの上に座りながら、服を作ったり靴を作ったりしていました。修煉がそんなに簡単なものであれば、彼女たちは神になっているはずです。この動作はただの補助的な手段です。練功せずに座るだけなら、なおさら何にもなりません。なぜなら、修煉の要素が全く入っていないからです。ですから、修煉の中で、皆さんに法理を分からせ、本を読むようにと言ったのは、あなたをさらに高い境地まで向上させようとしているからです。どのように向上するのでしょうか？ 常人の良くない考えを放棄し、人と人との間の闘争心を放棄することです。僅かな利益を得るために他人を傷つけ、少し得たら嬉しくてたまらず、少し失ったら辛くてたまりません。そのため、ろくに食事や睡眠もとれず、さまざまな病気を抱えるようになりますが、なんと辛い生き方でしょう！ 人間はそのために生きているのでしょうか？

皆さんはすでにこのことに対して明確な認識を持っているのに、

なぜ本当の修煉者のように自分の執着心を放棄することができないのでしょうか？ 正々堂々と修煉者として振る舞ってください。正法修煉の人はまず殴られてもやり返さず、罵られても言い返さないように私はいつも言っています。それでは、皆さんは修煉の中でトラブルにぶつかったとき、なぜその心を放棄することができないのでしょうか？ 気に障るようなことを言われたとき、なぜ機嫌が斜めになってしまうのでしょうか？ 不機嫌になったとき、心の中で修煉と向上の機会を拒絶しているのではありませんか？ 常人と同じような喜びを得たいと思っているのではありませんか？ それでは、あなたは常人ではありませんか?! こういう時、「私はなぜ不機嫌になったのか？ 人に何か言われて不機嫌になった時、自分は何かを求めているのではないか？」と考えるべきです。常人の中で誰もが自分に優しく、気持ちよく過ごすことを求めているのなら、どうやって向上できるのでしょうか？ 常人のものを何も取り除かなければ、どのように向上するのでしょうか？ ですから、向上することはできません。これらのもの、人間が放棄できない執着を真に放棄すべきです。

しかし、皆さんが今日修煉しているこの大法に関して、私はすでに現在の人類社会、常人社会で働く人々がいかに修煉するかを十分考慮しました。ですから、大法を修めても、自分の仕事、商売、すべての家庭生活や社会活動ができます。大法の常人社会での広がりや修煉方式は、あなたの修煉に影響することはありません。この点について、私はすでに十分考慮しました。私が伝えた大法は

人心を真っ直ぐに指すもので、物質の利益の中であなたの心を取り除いていますが、本当に物質的利益を失うことになるとは限りません。なぜなら、物質そのものが人の心を代表するものではない、と私は見ているからです。家に巨万の財産があり、家が金のレンガで建てられていても、あなたの心は金銭のことを思っておらず、非常に淡泊であれば、これはすでに金銭に対して執着がないということです。つまり、大法が求めているのは人の心の変化であり、あなたに物質を放棄させることではありません。もちろん、人の心が試される際には、必ず厳しい試練が現れます。物質を求めるあなたの心がどれほど強いのか、何を重く見ているかを見るのです。皆さんも知っているように、大法弟子の中には、商売をする人、大きな商売をする人もいます。彼らは一人の修煉者であり、自分の仕事環境において皆、良い人で、嘘をつかず人を騙していませんが、商売は非常にうまくいっています。彼らは常人のように、寝る時も食事をする時も落ち着くことができないほど、商売に力を注いでいますが、商売を成功させています。現在この不景気の中で、ますます修煉者は違いを表しています。自分が修煉の基準に達することができたとき、このような超常的な現象が現れます。

先ほど、執着心が修煉を妨害していることとお話しました。多くの学習者がトラブルにぶつかり、心が穏やかでなくなったとき、あなたは常人を相手に怒ることを考えていませんか？ 皆さん考えてみてください。佛や神、偉大な覚者が、人間を相手に怒ることがあり得るでしょうか？ 決してあり得ません。なぜなら、佛、神は

人間の次元にいないので、常人の情を持っていません。なぜ、自分を常人と一緒にするのでしょうか？ あなたは常人と同じようにトラブルに対処しているとき、すでに常人と同じレベル、同じ境地にあり、つまりあなたはすでに常人の中にいるということです。常人と同じでなくなったとき、常人から抜け出すこととなります。もちろん、表面に現れるのは寛容で度量があるということです。常人からはこのように見られるのですが、実はそれは皆さんの修煉中における心性の位置の表れなのです。ですから、いかなる環境においても、いかなる状況においても、トラブルに遭った場合、善の心、慈悲の心をもってすべてに対処すべきです。自分の敵を愛することができなければ、圓滿成就することはできません。（拍手）一般の人があなたの気に障ったとき、あなたはなぜ相手を許すことができないのでしょうか？！ なぜ、かえって常人のように相手と言い争うのでしょうか？ 学習者同士の間も同じではありませんか？

道理を説けば、皆さんは分かります。私が皆さんに教えているのは法理であり、皆さんに示しているのはまさにこの法です。どこまでできるかは、すべて皆さん自身の修煉次第です。もちろん、私は皆さんを助けることができますが、多くの場合、常人社会に現れず、多くは人に見えないのです。修煉の中でこの法をしっかり学ぶことは極めて重要なことです。しっかり法を学ぶことができれば、あなたが執着して放さない最も悪い心を取り除くことに役立ちます。

自分の観念を自分としないでください。多くの人は法を読む時、観念を抱きながら読んでいます。「この部分が良い。あの部分は理

解できない。この部分は良くないと思う」という状況です。皆さんに教えますが、自分が賢いと思い、自分の判断は正しいと思っていますが、実はそれは大間違いです。なぜなら、あなたの考えは常人社会で築かれたものであり、あなたの良し悪しを量る基準は常人の基準であり、決して常人を超えていないため、あなたは法の本当の本質を見出すことができないからです。自分の執着心はあなたが法を得ることを妨げています。自分が良いと思っている部分を選んで読んでいますが、あなたは真に修煉しているではありません。なぜなら、良くないと思ったとき、または読みたくないと思ったとき、紛れもなく後天的に形成された良くない心と考えが作用しています。しかし、それは本当のあなたではありませんが、あなたはそれを自分だと思ってしまいました。

なぜでしょうか？ 皆さん考えてみてください。子供が生まれた時、いかなる常人の観念もありません。六歳以下の子供の場合、私の一言で天目を開かせることができると話したことがあります。なぜでしょうか？ 子供には常人社会のいかなる観念も形成されていないからです。子供は純粋で清らかで、宇宙の真・善・忍という先天的な基準に符合しているからです。一旦、常人社会でいわゆる経験を積んでしまい、思想の枠ができてしまうと、老練で経験豊かであるなど聞こえの良い言い方をしますが、実はすでに自分を非常に悪くしました。これらの観念があるために、あなたは宇宙の真相、本質、宇宙の真理と相容れなくなりました。これらのものは後天的に形成されたのに、どうしてあなたであり得るのでしょうか？ 返

本帰真とはどういうことでしょうか？ 自分をきれいに洗い、先天的で最も純正で、いかなる観念もない状態に戻るといことです。それこそ最も聡明で、世の中のすべてをはっきり見ることができます。あなたにいかなる観念もないとき、すべてはあなたの眼中にあり、世の中のすべてを一目見れば直ちにその真実が分かります。これが智慧なのです。杵をもって物事を見るとき、あなたは自分の杵にはめられてしましますが、その杵は真理ではありません。自分の知的レベルが高く、自分の判断基準が正しいと思っているかもしれませんが、実は正しくありません。私がこのように説明しても、あなたは直ちに私の見方を理解し認めるとは限りません。しかし、本当に心を放下し『轉法輪』を読めば、この本が一体何なのか分かるのです！

なぜ、中国と全世界にこれほど多くの人が学んでいるのでしょうか？ 中国だけで、一億人近い人々が学んでいます。多くの人は科学者や知識レベルの高い知識人、社会学者、思想家、哲学の研究者、さらには高官です。国外では、多くの博士、修士、大学院生、教授が学んでいます。彼らは皆頭が悪いのでしょうか？ 特に中国という社会で、人々は多くのことを経験し、ある思想を信仰したことがあり、文化大革命も経験し、何かを崇拜したこともあり、多くの教訓を得たのです。彼らは何でも経験しました。このような人たちに盲目的に何かを信じさせることがあり得るのでしょうか？！ では、なぜ彼らは法を学ぶことができ、しかもあれほどまでに固い決意を持っているのでしょうか？ このこと自体が、すでに

答えを示しているのではありませんか？ 私は皆さんに良い人になり、さらに良い人、超常的な人、健康な人、より高尚な人となり、最終的に圓滿成就に至るように教えているからです。これは私、李洪志の二言三言で、理性を失ったかのように人々を私に従わせることのできることはありません。皆さんも知っているように、大法は緩やかな管理をとっており、学びたければ学ばばいいのですが、学びたくなければ元のところに戻ればよいのです。私は全く気にしていません。いかなる縛りも組織形式もなく、あなたから一銭も取りません。なぜ皆さんはここに集まり、追い払われるようなことがあっても出て行かないのでしょうか？ 彼らは自分の考えを持っていないのでしょうか？ 理智がないのでしょうか？ しかし、一部の人はなぜ心を放下して本当にこの本を読むことができないのでしょうか？ 李洪志が何をしているのか見てみたらどうですか？ なぜ世界中でこれほど多くの方がこの本を学んでいるのでしょうか？ 読んでみれば、私は何をしているか分かるようになるかもしれません。

この法を伝え始めた当時、私には最も懸念していたことがあります。皆さんも知っているように、今日の人類社会において、いかなる宗教も、人々の心、人類の道徳を元に戻らせることができません。この点に関して、それらの宗教を信じる人自身も分かっており、全く為す術がないのです。これだけでなく、人類の道徳を元に戻らせ、人々の道徳を再び高尚なものにし、さらに人々を圓滿成就させることのできる学説、道理は、現在の世の中には、もはやありません。世界中をくまなく探してももう存在しません。このような状況にあり、

人間はすでに非常に危険な状態に瀕しています。今日私が伝えた大法が人々を済度できなければ、人類はもう助からないのです。なぜなら、宇宙の中で宇宙を造り出す法より高い法はもうないからです。人間に正念がなく、道徳による束縛がないとき、どんな悪事でも敢えてやりかねません。しかし、神はそれを許さないのです。皆さんは宗教や予言、予言者、または本や伝聞から、人類に災難が起こるといふ情報を得ました。皆さん考えてみてください。人類がこのように腐敗墮落していけば、危ないではありませんか？ 神が人間を懲罰しなくても、人間は殺し合うようになります。実は人間はすでに自らを壊滅させており、ひいては平和な状態下で、知らぬうちに自らを壊滅させています。科学技術の発展による汚染は自然環境を破壊し、将来すべての水が汚染されてしまうでしょう。そして、人類の科学技術では水を元のような純粋な状態に戻すことはできません。食べ物も化学肥料で栽培されたものです。皆さん考えてみてください。このまま進んでいけば、人類に変異が起こります。体形、外観まで変異が起こります。もし人類が人間を複製するのであれば、人類は本当に自ら自分を壊滅し始めるのです。人間の皮を被った宇宙人が大量に複製され、人間の身体を占拠するのです。未来の人類はこのような人間からなり、彼らは今を上回る勢いで人類を複製し、最終的に完全に人類に取って代わります。

もちろん、私には世の中のすべてを見て取ることができます。私は人類のすべてを説き明かすことができます。現在、私は人類のこれらの問題を解決するために法を伝えに来たものではありません。私

は修煉者が真に法を得て向上できるようにするために、これらのことを説いたのです。これは私がこのことを行なう目的です。

先ほど話したことに続いて、私はもう一つの具体的な問題について話します。修煉の中で執着心を抱いて放さない人がいます。そのため、トラブルがますます激しくなり、修煉の中で乗り越えるべき関がますます高くなり、乗り越えられなくなりました。在席の中にこのような人がいます。それから、その人は反対の立場に立ち、大法を恨み、ひいては私まで恨んでしまいました。他の人はなぜあなたのようにならなかったのでしょうか？ この一億の人は皆、愚か者なののでしょうか？ なぜこのようになってしまったのか原因を考えないのでしょうか？ 大法を学んだ人に私は正々堂々とした人、良い人になるように、悪事を働かないように教えました。相変わらずギャンブルをする人がいます。負けたら、大法のせいになります。ギャンブルをしてもいいと私は教えたのでしょうか？ それとは反対に、私はギャンブルをしてはならず、良くないことをしてはいけないと教えました。

また、大法を修煉して突然思いがけない傷害を受けましたが、それも大法のせいにする人がいます。考えたことはありますか？ 私は『轉法輪』の中でこのような例を挙げました。ある人が大法を学んだ後、ある日突然倒れ、脳血栓のような症状で半身が不自由になり、頭の半分が痺れてしまいました。しかし、次の日その人はベッドから降りて歩くことができるようになり、一週間後にほぼ回復しました。そして、この人は煉功点で「私は大法を修煉して、半

身不随になりました。もうこれ以上修煉しません」と学習者に話しました。皆さん考えてみてください。もしこの人が大法を修煉していなければ、半身不随がこんなに早く治るでしょうか？ 半身不随がどういう症状か皆さんも知っていると思いますが、この人はそれを大法のせいにしてしまいました。一部の人は真剣に考えてみるべきです。難に遭い、先生が私を守ってくれなかったと言う人がいます。もし私が守ってあげなければ、あなたの手足が痛めつけられるだけでなく、あなたの命まで危険にさらされたかもしれません！ 知っているのでしょうか？ 私があなたの難をここまで減らしたのに、あなたはかえって大法を恨むのです。人はこのような無知の状態下で非常に済度しにくいのです。自分が宇宙で造った借りなのに、それを返したくなく、どんな難にも見舞われることなく、何の苦勞もせずにすべて私にそれを肩代わりして欲しいと思っています。これが修煉でしょうか？ これであなたの心を高めることができるでしょうか？ これらの問題にぶつかるとき、正念をもって対処できなければ、どのように修煉するのでしょうか？ 今後の道をどのように歩むのでしょうか？ 私が皆さんのために多くのことを行なったにもかかわらず、あなたは大法を恨み、私を恨み、ひいては私を罵っています。もちろん、私は誰も怨みません。私はただ皆さんに法理、ある道理を説いています。私を罵っても、私はあなたに不満を持つことはありません。なぜなら、私の心は常人の中ではありません。私が良いと言われても、悪いと言われても、神と言われても、人間と言われても、心が動じることはありません。なぜなら、いかなる常人の心も、私

の心を動かせることはできないからです。皆さんがこの状態に達することができるれば、圓滿成就までもう遠くありません。

私はただ例を挙げただけです。修煉するとき、心を正しく持つべきです。もちろん正しく持つようにと言っても、あなたにそれができるとは限りません。私の一言でそれができるようになりますか？ あなたに正念を生じさせ、上を目指して修煉させることができる最も根本的なものがこの法です。一億人以上の人が修煉しています。すべての人が皆さんのように今日ここに来ることはできません。私が皆さん一人一人に説明してあげるわけにはいきません。これはあり得ない話です。しかし、法はすでに伝えました。私はさらに皆さんのために責任を負わなければなりません。皆さんが真に修煉して向上してこられるように、私はある方法をとりました。つまり、私が皆さんに与えることができ、私のできることをすべてを法に織り込みました。後は皆さんがそれを得るかどうかだけです。ですから、皆さんに教えますが、私に会うことができなければ法を師としてください。法を師としてください。

続いて、小さな問題について触れたいと思います。ある学習者が修煉の中で極端に走る場合があります。彼は突然何かを悟り、「ああ、これが私の執着心を引き起こすから、もう要らない。処分しよう」「ああ、この仕事が私の執着心を引き起こすから、やめてしまおう」「ああ、すべてを避けよう」と考えるのです。皆さん考えてみてください。これが修煉と言えますか？ これは極端に走ったのではありませんか？ 私たちは常人の中で修煉しているので、最大限

に常人の形式に符合しながら修煉すべきだと私はいつも言っています。これは簡単に言える言葉ではなく、いつものように仕事をすることで、この言葉の基準に達したということでもありません。よく考えてみてください。その意味は、皆さんの修煉の各方面に現れてきます。あなたがもし常人と同じように常人社会にいながら修煉できなければ、つまりあなたが常人社会という形式を破壊しているのです。常人社会は良くありませんが、それも宇宙大法が人類という次元の生命のために切り開いたのです。そこは良くないからこそ、人々はここで修煉することができます。人間のこの良くないものに染められてしまうのか、それともここから抜きん出て、蓮の花のように、泥沼から咲き出し非常に神聖で、純潔になるのかということです。くれぐれも極端に走らず、誤って法を悟らないようにしてください。極端に走って、これも要らない、あれも要らない、仕事を捨てようと思ったとき、実はあなたはすでにもう一つの執着に入ったのです。執着を恐れること自体がすでに執着になり、つまり執着を恐れる執着です。

これくらいにしましょう。あとは学習者が体験を発表します。在席の中に記者がいますが、多分遙々遠いところから駆けつけて来たと思います。私は皆さんの気持ちがよく分かっています。私、李洪志は常人の中で名を広げたいと思っていません。私はただ大法を修煉している私の弟子、学習者のために責任を負いたいだけです。私がオーストラリアに来た目的は、学習者に修煉の中の問題に解答し、向上できるようにするためです。しかし、皆さんが来た以上、何の

収穫もないまま帰ってほしくありません。今まで、記者が『轉法輪』を読み終えていなければ、私は記者に会わないようにしてきました。私たちに對してある程度の理解があつてから、初めてあなたと話をするので。なぜなら、私が伝えているのはあまりにも大きいので、二言三言で説明できないからです。あなたが知りたいのは常人社会の中の問題で、私はそれに答えたくありません。なぜなら、私は現在、全く常人のことや社会の中のことに関わっていないからです。しかし、皆さんはすでに来ました。ですから、今日ここで学習者の発表をよく聞いて、この二日間の法会を通して参加するようにしてほしいのです。それから、私は皆さんに会い、皆さんも私に質問を出すことができます。この法会の間、私は誰にも会いません。なぜなら、私には片付けなければならない多くのことがあるからです。私たちの法会は学習者の向上を真の目的としており、決して形式的なものではなく、誰かに見せるためのものではありません。(拍手)

それでは、皆さんは交流会を続けてください。私はここまでします。明日の午後、皆さんの質問に答えますので、今は私も学習者の発表を聞いてみたいと思います。

メモを出してください。今日の午後は主に皆さんに法を説き、皆さんからの質問に答えます。しばらくの修煉を通じて、多くの問題は本の中から解決されるようになります。しかし、皆さんはやはり師父に聞いたほうが安心だと思っています。皆そう思っています。それなら、私は皆さんの願いを満足させるために、できるだけ出された質問に回答します。それでは、始めましょう。

弟子：修煉し始めた時から出遭った一切の魔難は按排されたものなのか、それとも人為的な要素によるもののでしょうか？

師：修煉の中で確かに修煉の道を按排しましたが、それを乗り越えられなかったのは人為的な要素によるものです。修煉は複雑なので、すべてのことが同じようになることはあり得ません。あなたに現れたことが他の人にも現れるとは限りません。同じことを同じように扱うこともありません。なぜなら、迷いの中で修煉しているからです。もし皆同じになってしまえば、迷いを破ることになります。皆がどのようにすべきかを知り、「そうだ。他の人はこのように対処し、しかもうまく対処できた。私も同じようにしよう」という具合であれば、これは修煉とは言えなくなります。難は実は皆さん自身の業力によって形成されたのであり、生々世々に積んだ業力が皆さんの修煉を阻んでおり、返本帰真を阻み、昇華を阻んでいます。他でもなく、この業力が作用しています。私はその一部を片付け、残りはあなたが自分で消去するために残します。なぜなら、宇宙には「借りたものは返さなければならない」という理があるからです。どの世においても、悪事を働けば業力を積んでしまいます。来世または現世のいつか、それを償わなければなりません。ですから、このものが作用しています。私はそれを魔難と呼んでいます。実は常人なら誰にでもあります。常人が苦痛の状態下で見舞われた病気や生活の中の困難もその人の魔難です。学習者の場合、私はそれを皆さんの修煉の各次元に配分しただけです。皆さんが修煉して関を乗り越え心性を高めるときに、それを利用しています。こういう役割で

す。常人はただ業力を償うために業力を償っているだけです。ですから、修煉という要素が含まれていません。しかも、常人はすべての業力を償わなければなりません。私たちの場合、修煉しているので、難が大きすぎれば修煉できなくなります。ですから、業力を減する必要があります。もちろん、それには条件があります。これは皆さんがすでに知っていることで、法の中で詳しく説いたので、ここでは繰り返しません。

弟子：自分で法を学ぶときの進み具合と集団で法を学ぶときの進み具合は違うのですが、何か関係がありますか？

師：自分で法を学び、固い決意をもって着実に修煉できれば、それも素晴らしいと思います。しかし、皆さんも知っているように、家で精進して一人で法を学ぶことは非常に難しく、あなたも常人社会に接触しないわけにはいきません。今日の常人社会の人はやりたい放題やっており、どんな良くないこともやりかねません。つまり、道德の基準や束縛が一切ありません。今日の人類はまさにこうなのです。皆さんが社会で接触した人はすべて常人社会の人々で、彼らが話していること、思っていること、行なっていることは皆、今日の人類が行なっているすべてです。一人で修煉していれば、良い環境がありません。接触しているのはすべてこのような環境で、あなたはこの環境に影響されているため、向上しにくいのです。以前話したことがあります、多くの学習者は修煉するとき、自分がまだ悪くなく、良い人だと思っていました。真に修煉してから、全く

そうではないと気づくのです。なぜなら、自分が良いと思ったのは、自分を現在のすでに腐敗堕落した人類と比べていたからであり、人類の道徳が最も高尚だった時期や宇宙の特性とは比較していなかったからです。

集団で煉功する場合、皆さんが集まって話していることや考えていること、行なっていることは皆、善の念に基づいており、どんなことをしてもできるだけ他人のことを配慮します。非常に純粹で清らかな環境、穏やかな浄土なのです。この環境であなたは一人の修煉者として、この場にある慈悲の力に感化されるに違いありません。ですから、私が皆さんに集団で煉功するようと言ったことには目的があるのです。この環境で接するのはすべて良い人です。皆さんの言動と行なうことは常人社会の人の言動とは違います。ですから、この環境を失ってはなりません。しかし、大法を学ぶ人が多くない地区もあり、一人または二人が学んでおり、良い環境を持っていません。こういう場合、自分で頑張るしかありません。確かに本当に黙々と学んで修煉している学習者がおり、しかも精進しています。本当に素晴らしいのです！ここで話したのは、集団で修煉する環境がなくてはならないということです。非常に良い環境ですので、失わないでください。この環境も人を熔煉しているのです。

弟子：学習者と交流している中で、男性の学習者は理性から大法を理解することを重視し、女性の学習者は感性から大法を理解することを重視しているように感じました。もしこれが普遍的な現象

であれば、どのようにお互いを参考にして、より速く向上できるでしょうか？

師：これについて私はあまり同意できません。法をよく認識できている学習者は皆、理性から法を認識しています。本をあまり読んでいない人、つまり精進が足りない人や、学び始めたばかりの人だけが、感性から法を認識しがちです。この点については男女の違いはありません。今の女性も素晴らしく、自分の考えを持ち、能力も備えています。このように見てはいけません。また、女性の大法弟子の根基や能力を性別で区別してはいけません。

弟子：二回、世間法を修煉することをどのように理解するのでしょうか？

師：学習者のそれぞれの状況によって学習者がどのように修めるかが決まりますが、これはただその現れの一つです。十回や八回である可能性もあります。羅漢という境地で圓滿成就すれば、つまり、あなたは世間法の中で一回だけ修煉すればいいのです。さらに高い次元を目指すなら、繰り返し絶えず修煉する必要があります。一部の人是比较的敏感で、より明確により多くのことを知っている人もいるかもしれません。

弟子：法を学ぶ過程で、法理を理解しなければならないと同時に、知識を探究するという執着に陥ってはいけません。どのように対処すべきでしょうか？

師：法に則って修煉の意義を認識するようになれば、分かってきます。法に則って法を認識できるようにするには、本を多く読むしかありません。この大法はすべての謎を破り、すべての人心を直すことができます。本を読みさえすれば解決されます。多くの問題に対してその答えを得られないと感じているとき、実はそれはあなたが答えを得ようとしていないからです。なぜなら、本を読み法を学べば、いかなる問題も解決されます。皆さんも知っているように、現在、法輪功の学習者が一億人であると政府は公に認めています。皆さん各々が私に質問をして、私がそれに答えるような機会は、そもそもありません。ここに座っているオーストラリアの学習者は現在、私に会うことができますが、中国大陸の学習者は会うことができません。実は私は中国大陸に滞在することが多いのですが、彼らは私に会うことができません。なぜなら、私は彼らに会いに行くことができないからです。一旦あるところの学習者に私の所在が分かれば、学習者はそれを全国に伝え、誰もがそれを知るようになり、皆、私に会いに来るのです。中国という社会は他の社会と違って、私たちを理解していないので、大法に損失をもたらすかもしれません。ですから、私は皆さんに会うことができません。このような状況下で、私は皆さんの修煉に責任を持ちたいのですが、どのように責任を持つのでしょうか？ 昨日もこの話をしましたが、つまり私は皆さんに与えることのできるすべてをこの法に織り込んだのです。本を読みさえすれば、何でも得られます。『轉法輪』をすでに二百回あまり読んだ学習者がいますが、まだ読み続けています。毎回毎回違いま

す。なぜなら、それは修煉の本であり、中に異なる次元の内涵が含まれています。一回目の時に出てきた問題は、二回目に読む時にはすべて解決され、それが分かるようになります。しかし、二回読み終えた時、また新しい問題が出てきますが、三回目にはそれも同様に解決されます。絶えずこのように修め、絶えずこのように読み続けられれば、あなたは絶えず精進しているのです。その上、大法の煉功という補助的な手段を加えれば、あなたはすなわち向上の中にいます。「先生、私は圓滿成就できますか？」と私によく聞く人がいますが、「私が先ほど言ったようにすることができますか」と私は聞きたいのです。実は自分が圓滿成就できるかということは自分に問うべきなのです。

弟子：高い次元まで修煉した後、身体の細胞がすべて高エネルギー物質に置き換えられ、その時には新陳代謝もなくなるので、飲食の必要もなくなるのでしょうか？

師：人の身体が完全に高エネルギー物質に転化したとき、それは可能です。身体の表面がまだその状態に達していない場合は、できません。皆さんも知っているように、氣功を練るときに、氣を蓄え、氣を発することができます。本当に高い次元に向かって修煉すると、それはもう氣ではなくなり、氣は何ものでもなくなります。そして、さらに高次元のエネルギーが現れます。私はそれを功と呼んでいますが、実際にはさらにミクロ的な精華の物質です。この精華の物質はあなたの身体に蓄えられ、身体のすべての細胞に

この高エネルギー物質が蓄積されます。さらなるミクロ的な物質はもちろん制約性を持っています。そうしていくうちに、この高エネルギー物質はますます多くなり、ますます飽和状態になります。あなたの身体の細胞はそれに同化されるのではありませんか？ あなたのすべての細胞がこの高エネルギー物質に同化されたら、あなたの身体はまだ常人と同じでしょうか？ このような身体は他の空間から採集してきた高エネルギー物質によって構成されます。それなら、あなたにはまだ常人のような新陳代謝が存在するのでしょうか？ 存在しなくなります。その時になると、食べなくても、飲まなくてもいいのですが、あなたが食べたり飲んだりできなくなるということではありません。あなたに本当に必要なのは、私たちのこの空間のものではありません。人間の食べ物をあげても、あなたはそれを欲しいと思わず、見るだけで吐き気がしてきます。あなたに本当に必要なものは他の空間のさらに高級な物質です。

弟子：広州のすべての学習者は先生にお会いしたいと思っています！ 広州のすべての学習者は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます。（拍手）

弟子：オーストラリアの修煉者は一般的に言えば、レベルが低いのでしょうか？

師：私はこのような話をした覚えはありません。修煉は皆さん自身にかかっています。実は、皆さんがどの境地まで修煉したのか、

現在それを知ってはいけません。一旦知ってしまえば強大な執着が現れ、それが障碍になり修煉の道のりを遮ってしまいます。分からなければ、この執着もありません。

弟子：『精進要旨』の中で、修煉は厳粛なことであり、常人の反省と悔い改めではないと先生はおっしゃいました。自分が反省し、悔い改める段階を徘徊していると感じており、なかなか乗り越えることができません。内に向けて探すことと反省との間にどのような区別があるのでしょうか？

師：修煉の向上を反省と悔い改めることと同じにははいけません。しかし、自分を反省し、悔い改めることができれば、このこと自体は修煉の一部分です。こういった関係です。

皆さんも知っているように、キリスト教やカトリック教は修煉という言葉を使いませんが、実はそれも修煉であると私はいつも言っています。ただ文化の違いで、イエスもエホバも修煉という言葉を使いませんでした。なぜなら、彼らの文化にこの概念がなく、考え方も違うからです。それでは、皆さん考えてみてください。それは修煉なのでしょうか？ 人々は教会に入ったら、非常に敬虔な心で彼らの主、イエスに対して懺悔するのです。間違ったこと、しっかり行なうことができなかつたところがあれば、今後それを良くします。それからその人の行動は良くなります。また間違いに気づいたら、もう一回懺悔し、さらに高い基準で行ないます。皆さん考えてみてください。修煉は実質上、人の心を修めることです。彼らは心を

修めているのではありませんか？　ますます良くなり、行ないがますます良くなる時、彼らの天国世界が要求している基準に達するのではありませんか？　それは圓滿成就ではありませんか？　ただ文化の違いによって、功は説かれておらず、東洋文化のように豊富に話されていません。多くの言葉は比較的簡単で、要求も簡単です。ただ信じること、神に対する揺るぎない信念を要求しているだけです。

弟子：生死の関にいる修煉者がいますが、本人がはっきり認識していないので、彼と一緒にいる修煉者はどうすればいいのでしょうか？

師：「生死の関にいる修煉者がいます」この言い方はあまり正しくありません。また、本人がはっきり認識していなければ、その人が修煉しているとは言えません。彼は実は精進しておらず、感性からの法に対する認識と人間の情熱で修煉しており、本当に理性から法を認識していません。本当に精進して着実に修煉していなければ、本当の修煉ではありません。皆さんも知っているように、修煉は厳粛なことです。私はこのような人を修煉者として認めることができません。この世に修煉より厳粛なことはありません。業力に満ちた人間、汚い考えが頭に溢れている人間が大覚者になろうとしており、圓滿成就まで修めようとしています。これはなんと厳粛なことでしょう。修煉者が人間のすべてを放棄する過程はまたなんと偉大なことでしょう！　皆さんは厳粛に修煉に対処しなければならないの

ではありませんか?! 関の一つ一つを皆さんはしっかり乗り越えなければならぬのではありませんか?! 無頓着で、信じているように信じておらず、修めているようで修めておらず、自分に対してまったく責任を持っていないのであれば、このような人は圓滿成就できるでしょうか?! そうではありませんか? 大法の心性の要求に従って行動することができなければ、それではいけません。常人には病気があるもので、生老病死は常人の規律です。

弟子：大学生でありながら修煉する場合、どのようにすれば精進し続けることができるでしょうか? 大学に進学せず、就職すればもっと良い修煉環境があると言っている弟子がいます。

師：それは大間違いです。真理を目のあたりにし、衝動的になる人がいます。私はこの気持ちを理解しています。特に私が今日大法を伝え出し、多くの天機を説いたので、法を得たばかりの時に衝動的になり、修煉者と常人の関係を正しく扱うことができなくなりました。最大限に常人社会の形式に符合して修煉しなければならないということは、ただの簡単な一言ではありません。これは法なのです! 多くの方面に貫かれています。将来、全世界でもっと多くの人々が大法を学ぶようになり、数十億の人が学ぶようになると私には分かっています。この法を伝えた当初、どういう結果になるのか私には分かっていました。これほど多くの人が学びに来て、皆、仕事をせず、学校に行かなければ、それでいいでしょうか?! ですから、法を伝える前にこのことを考えたのです。常人社会でいか

に人々を修煉させるかは非常に重要な問題です。ですから、あなたの仕事、商売、勉強などの多くの方面があなたの修煉に影響することはありません。今まで通りに仕事をし勉強すべきです。あなたの仕事と勉強は決して修煉ではありませんが、あなたは一人の修煉者として、向上した心性はあなたの仕事や勉強に表れてくるのです。つまり、そういう関係です。ですから、大法の学習者はどこにおいても、本当に良い人だと言われます。これは最大限に常人社会の形式に符合して修煉するときに現れてくる状態です。これを成し遂げることができなければ、私の言った通りに、師父の要求通りに行動しなかったということになります。私の言ったことさえ聞かなければ私を師父と呼ぶ意義があるでしょうか？ 私は皆さんに良くない道を教えることはありません。この法を伝え出した以上、私は法に対して責任を持たなければなりません。実は私は皆さん自身より皆さんのことを大事にしています。なぜなら、皆さんは師父と共におり、未来の最も偉大な神であり、新宇宙の模範、人類の未来の希望だからです。法を学んだら常人のことをしなくなるということ、くれぐれもしないでください。大法が許さないことをあなたがしないうら、それはあなたの悟性が良いのです。もし常人の正常な仕事をしなくなれば、それは問題があります。それは歓喜心による執着が引き起こした問題です。

弟子：楽山の子供弟子は師父にご挨拶を申し上げます！ 北京の大法弟子は師父に最も崇高な敬意を表したいと思います！ 大

連の弟子は師父にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：『轉法輪』第八講の「煉功するその人が功を得る」というところで、「あなたの身体のあらゆる信息や、あらゆる霊体、あなたの細胞が皆功を伸ばします」と説かれています。ここで言う信息与霊体は何を指しているのでしょうか？

師：あなたのすべての細胞は皆、あなた本人の形象をしており、さらにさらにミクロ的なところまでずっとそうなのです。私が法の中でこの問題を説いただけでなく、現在の人類もこのことに気づきました。科学者が動物の細胞をスライスし、その画像をパソコンに送ったら、モニターに現れたのはその動物の形象です。しかも全く同じ姿かたちです。しかし、表面から見ればただ一つの細胞にすぎません。つまり、煉功をしている時、あなたの身体のすべてはそれに従って変化していますが、それは霊体ではありませんか？ 間違いなくそうです。しかも、あなたが修煉してできたすべては、皆、生命のあるもので、あなたの功、功のすべての粒子、さまざまな法器、功能、神通なども含まれます。それだけにとどまらず、圓滿成就する人は相当豊富なものを持って、初めて大覚者になることができます。ですから、それらのものは皆、生き物で、生命があり、能力があるのです。この意味です。

弟子：双子は二つの主元神が同時に転生したのでしょうか？

師：もちろんそうです。決して一つの元神が二つに分かれるのではありません。

弟子：アフリカの一部の地区は一夫多妻制ですが、彼らに法を広めてもいいでしょうか？

師：いいです。誰でも学ぶことができます。社会制度の違いによって、人々の道徳、理性、観念に対する認識が違います。ですから、差異はとても大きいのです。これは彼らの修煉に影響しません。いかなる環境の中でも、いかなる階層の中でも、いかなる人であっても、修煉することができます。ただ彼らが修煉するかどうかの問題です。

弟子：この空間にある人間の身体は、宇宙にある膨大な身体の一つの粒子にすぎません。そして、粒子の大きさが異なることで、それぞれ異なる空間が形成され、それぞれの空間にあなたの身体が存在します。しかし、この空間はあなた一人のものではなく、宇宙の一部なのです。

師：そうです。この理解は正しいのです。あなた自身は個体の生命ですが、宇宙全体の中の一粒子であり、生命全体の一員でもあります。たとえば先ほどお話したように、あなたは個体の生命ですが、この境地における全体の生命であると言ってもいいのです。あなたの身体のすべての細胞は、あなたと同じ形象をしている独立した粒子の形式でもあり、また全体の一部分でもあります。

弟子：中国古代の社会状態と古代の人々は、現代より良いと師父はおっしゃいましたが、古代に争いや戦いもよくあったので、どのように中国古代の歴史を理解するのでしょうか？ 孔子が言ったように春秋戦国以前の三皇五帝の時代の古代社会だけが良かったのでしょうか？

師：古代社会は皆、現代社会よりも良かったのです。どの時期であってもそうです。これは人間と人間とを比べています。実は、人間のこの空間はもともと非常に悪いのです。宇宙の中で、人類よりも次元の高いどの空間から見ても、人間のところは最も悪く、最も汚く、また宇宙の真相が最も見えないところです。ですから、もともと良くなかったのですが、今日の人々はさらに悪くなっています。なぜなら、今日の人々の観念は逆になったからです。私は人間が他の空間と比べて逆になっているということを言っているではありません。それは天が定めたものです。私は、現在の人々は以前の人と比べて観念が逆になったと言ったのです。良し悪しは皆、逆になったのです。ですから、現在の人々が悪事を働いても、それが悪事だと本人は分かっておらず、良いことだと思っています。利益ばかり追求していると言われると、彼はそれを「有能であることの証だ」と言います。誰かがすりに遭うと、「すりが悪い」とは言わずに、「自分がしっかり注意しなかったからだ」と言われるのです。これは観念がすべて逆になったではありませんか？ 現代人は古代が良くないと言っていますが、実は現代人は現在のすでに悪くなった観念で古代の人を量っています。多くの香港映画では、古代の人が

殺したり戦ったりする場面が描かれていますが、それは芸術の手法であり、芸術の誇張です。数千年の長い歴史の中で、このようなことは取るに足らないほど少なかったのです。皆さんも知っているように、芸術は実生活を越えなければならないからです。

昔の人は「人を殴るなら顔を殴るな」と言ったものです。この言葉は一見簡単に聞こえますが、戦いでも自らを律し、やりたい放題にすることはしなかったのです。しかし、現在の人は殴り合うとき、もっぱら顔を狙い、凶悪で、残忍になり、何の制約もなくなってしまいました。人間が変わってしまったからです。もちろん、なぜ古代に戦争があったのでしょうか？ 皆さんに教えますが、それは天が定めたのです。宇宙の法理が人間のこの空間に定めたのは、武力で天下を征服し、王者が国を治め、勝者が英雄になるということです。次元の高い空間から見れば、これは良くないのですが、逆になった人間の理の中では、人間が宇宙と逆になっているという理に適い、数千年来、人類社会で作用してきました。人間の業力が大きくなった時、業を滅する必要があります。ですから、天災や人為的な災害、人間同士の戦争が起きるのです。

弟子：『轉法輪』を読むとき、あるいは先生が他の地域で解答された説法を聞くと、分からない言葉の意味を必ず理解しなければならないのでしょうか？ 例えば、「おのずと」や「必然」といった言葉です。

師：言葉の表面は普通、人間の認識と同じです。これらの言葉

を詮索する必要はありません。皆さんは本を読むとき、くれぐれも言葉遣いを詮索しないでください。順序通りに読んでいけばいいのです。しかし、自分が法を読んでいると分からなければならず、何を読んだのか分からなければなりません。法の内涵は表面にあるのではなく、皆さんがその言葉に対して、別の認識やさらに高い次元での理解に至ったとき、それが法理の内涵が現れていることであり、法が現れているのです。

弟子：鍼灸の医者として、鍼をするときに患者の皮膚に接触することがあり、吸い玉で治療するときも患者の皮膚から多くの汚いものを吸い出し、業力が移ることがありますが、修煉者はこのような仕事を続けられるでしょうか？

師：小心翼翼にならないでください。皆さんの社会でのすべての活動は皆、常人と接触しているからです。例えば、座った椅子はほかの人が座ったばかりのものですが、それに座りますか？ ほかの人が触ったものに触りますか？ このように間接的に接することも接触です。この社会は取りも直さず汚いもので、このようなものです。修煉者はあれこれ恐れる心を持つてはいけません。それでは、もう一種の執着、あれこれを恐れる執着が形成されます。正々堂々と修煉してください。あなたの身体から放出しているのは皆、正法の光です。大法弟子の中に科学研究をする人が多くいます。細菌の実験をする時、無意識のうちに細菌の近くに手を置いたため、細菌がすべて死んでしまったことに気づきました。このような例はすで

にたくさんありました。つまり、大法学習者の身体にはもともと殺菌能力があります。あなたは気功の方法で治療しているのではなく、常人の医療方法で治療しているため、大丈夫です。少しの業力と接触したとしても、それも極めて僅かなもので、何の影響もありません。もし気功で病気を治療しているなら、それは違います。それは明らかに他人と交換しており、相手の病を引き受けて、自分の良いものを相手に与えています。ですから、偽気功師は修煉したことがなく、金儲けに使いたいと思っていますが、実は自分自身を害しているのです。致命的に自分自身を害しています。人はお金のために何でも敢えてやってしまいます。自分自身を害しているにもかかわらず、それを知らないのです。

弟子：私はすでに二年あまり修煉して、大法に対して固い信念を持っており、ある程度理解しています。しかし、交流会の時に何を言えばいいか分かりません。心の中で分かっていますが、言い表すことができないので、何も言いたくありませんでした。これは先天的に自己表現力が低いのか、それとも法に対する理解がまだ足りないのでしょうか？

師：これは法に対する理解の問題とは限りません。それぞれの修煉に異なる状態があります。

弟子：先に修煉を始めた人と、後になって始めた人にどのような違いがありますか？

師：違いはありません。先に修煉を始めたからこのようで、後になって始めたからそのようだ、ということはありません。大法はまだ伝わっており、法さえ得たのなら、ただひたすら修煉してください。あなたを圓滿成就させることができなければ、あなたに修煉させません。次元の高さは修煉の門に入る順番によるのではなく、それは自分の修煉によるのです。

弟子：坐禅の時、頭が無意識に連続して揺れ動いたり、回ったりするため、入静できず、かえって怖く感じました。これはどういうことでしょうか？

師：二通りの場合があります。一つは、新しい学習者が本当の修煉者になる前に、以前、他のものを習ったり、または家で何かを祀ったり、拜んだりしたかもしれません。また、常人の中で良くないことをして、何かを招いた可能性もあります。本当に確固として大法を修煉していれば、煉功中に私はそれを取り除きます。もう一つですが、修煉を始めたばかりの時、身体が調整されますが、以前身体のどこかに病気があり、その業力を消すときの反応かもしれません。二通りの原因があります。しかし、できるだけ、それに追従して揺れ動いてしまわないようにしてください。どうしても制御できないときは、目を開けて煉功してください。あなたは今どうして動かないのでしょうか？ 現在のこの状態のままで煉功し、動かなくなったら目を閉じればいいのです。修煉者は大周天が通じれば揺れ動くこともあります。

弟子：米国ピッツバーグのすべての大法の学習者は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：大人が坐禅する時、子供がそばで寝てもいいでしょうか？  
このようにしたら、子供の主元神、副元神に影響があるでしょうか？

師：子供が功を得られるかどうかの意味ですね。しかも、直接言わなかったのですが、執着心があるからです。一人が煉功すれば、一家全員が受益すると私は言ったではありませんか？ 少なくとも、あなたが持っているエネルギー場は家族に有益なのです。なぜなら、あなたは正法を修煉しているのです、備わっている慈悲で和やかな力は、すべての正しくない状態を正すことができます。

弟子：修煉がある程度の次元までいったら、もしいつも以前の修煉過程と業を滅するときの感じ方を他の人に話したり、あるいは思い出したりすると、その時の次元に戻ってしまうと言っている人がいますが、そうでしょうか？

師：どうしてあり得るのでしょうか?! 一人の修煉者として修煉の過程を話すのは、自分と他の大法弟子がこのような関を乗り越えるとき、より良く乗り越えられるようにするためです。次元に何の影響もありません。もし、顕示心があれば別のことで、話しても学習者はそれを聞きたいとは思わないでしょう。

弟子：物質と精神は同一のものだと先生は昨日言われましたが、これは私たちが法を学ぶことと何の関係があるのでしょうか？

師：この質問を出した人はまだ学んでおらず、私が説いた法をまだ理解していません。それでも、私はあなたに答えます。ここで説いているのは修煉ですので、先ほどあなたも聞いたと思いますが、修煉を通じて人間の身体を変えることができます。このすべての変化は皆、修煉の中で修煉者の心性、考えが昇華することによるものです。通常、人々は心性を精神範疇のものとし、精神と物質は関係ないと思っています。また、精神と煉る功とは関係がなく、私たちはただ煉功をしているだけで、なぜそれらの道理を説くのかと知っている人もいます。これが多くの人が煉功しても功が伸びない根本的な原因です。あなたに道理を分からせるとき、あなたの考えを昇華させ、境地を高め、さらに高い次元の理を分からせることができます。それは、あなたが向上した後の思想境地であり、あなたの思想境地の位置です。この基準に達した時、初めて功が伸びます。この道理です。この道理が分からなければ、毎日煉功し、朝から晩まで煉功し、飲まず食わずで煉功しても、功は伸びません。しかし、本を読むだけで煉功しなければ、あなたが大法弟子であるとも言えません。なぜなら、あなたはそれを理論として学んでいるからです。修煉とは、自分に修煉したい意思があり、圓滿成就したい願望を抱き、同時に修煉する行為もあって、初めて修煉となるのです。これは表面のことを言っていますが、実は精神上的の向上はつまり功の向上です。なぜなら、精神と物質は同一のものだからです。

弟子：『轉法輪』を通読する時、何回か同じ状態が現れました。つまり、読んでいる時、頭が急に重くなり、眠くなりましたが、眠ってはいませんでした。目が本の中の同じ場所をずっと見ており、突然本から他の話が出てきて、それは『轉法輪』の中の話ではありません。

師：あなたの思想業力があなたをひどく妨害しているのです。あなたに本を読ませず法を学ばせないようにしています。眠くなり、寝てしまい、正念や正覚を失うようにさせています。甚だしい場合、思想業力が妨害を出現させ、あなたの頭の中に字を表します。大法を破壊する魔もこのようにすることがあります。ひいては考えの中であなたと喧嘩したり、話しかけたりして、法を学ばせないのです。これは明白ではありませんか？ これは思想業力や外来の妨害が作用しているのです。それはあなたを昇華させないのです。というのも、あなたが昇華すると、それらは消滅させられてしまうからです。私は皆さんの業を滅すると言いましたが、それが本当に滅されたら、それらは本当に解体してしまいます。それでは、それらが納得するのでしょうか？ ですから、必死に抵抗しています。これらのものを自分だと思ってしまうと、あなたは法を得ることができません。なぜなら、法はあなたに与えるもので、それらの業力に決して与えません！ ですから、それを克服し、いくら眠くても克服し抑制し根絶すべきです。この関を突破した時が、つまりそれを消滅した時です。

弟子：多くのことに関して、何かを言えばすぐ間違ってしまう、

何かをすればすぐ間違ってしまったと感じます。ですから、何も言えず行なえません。しかし、周りの人は私がいかににも小心翼翼になれていると言っています。

師：私もそう思います。実はこれは真理を認識してから、人間の理が逆になっていると分かったときに現れた状態です。これは修煉者に向かっていく過程での現れです。しかし、やはり修煉者として正々堂々と振る舞い、修煉すべきです。ただ修煉者の境地が現れることになり、意識的または無意識的にしたことは皆高い基準に合ったことです。他の執着に陥らないでください。言ったこと、行なったことが間違いではないかと恐れるのも執着です。できるだけ正々堂々と行なえば、問題はありません。

弟子：虚栄心の根源はどういうものか、教えていただけないでしょうか？

師：情です。人に良いと言われたい、人に褒められたい、尊敬されたい、あなたの見栄えを損なういかなることも恐れているため、このような心理状態が生じました。つまり虚栄心で、執着です。人間の面子を大事にする心も相当強いのです。実は、心を放下し、これらの重荷がなければ、修煉はもっと速く進むのです。

弟子：修煉の過程で多くの関を簡単に乗り越え、歯を食いしばって乗り越えることができましたが、「情」の関はなかなか乗り越えられません。連続して何回も乗り越えられませんでした。特に性格が

弱く、感情が豊かな人間です。二年近く修煉しましたが、彼氏との感情の問題で、数か月煉功をやめました。今、再び修煉すれば、先生はまだ私の面倒を見てくださるでしょうか？

師：大法は現在まだ門を開いています。新しい学習者が絶えず入ってきて学んでおり、まだ門に入ってきています。修煉さえすればいいのです。すべてはあなた自身にかかっています。しかし、ずっとこの状態ではいけません。教訓は一度あれば、もう十分です。「情」は確かに放下しにくいのです。皆さんに教えますが、人々は自分の考えと感情が自分の身体の一部だと思っており、考えを経て生じたものだと思っていますが、実はそうではありません。「情」はまさに最も理性的でないことの現れです。「情」に動かされているとき、全く理性的でないのです。よく考えてください。皆さんが何かずっと気になって忘れることができず、不平不満を感じているとき、それは情に動かされているのです。我を忘れて、上機嫌になり、情緒が異常なとき、それは情に動かされて理性を失ったのです。情に対して未練を感じ、胸がえぐられるようにつらいとき、情に動かされ振り回されています。すべては情が作用しています。実は情というのは、私たちのこの空間の三界にいる神です。彼は人間のために造られたのであり、人間、三界内の衆生のために存在する神です。情がなければ、人々は冷たくなります。人間に情がなければ、さらに悪くなります。それでは、人類には全く面白みがなくなります。情があるからこそ、人々は喜怒哀楽が分かるのです。情があるからこそ、親子の感情があります。また、情があるからこそ、家庭を作る

ことができ、自分の子供を思いやることができます。情は人類にこのような作用を果たしています。しかし、誤った思考方式によって、情は人々に正しくない行為や考えを起こさせることもできます。人は生まれてからすぐに情に包まれています。それはあなたのすべての細胞に浸透し、三界内のすべての分子と細胞が情に浸されています。そのため、修煉の中でそれから抜け出すことは非常に難しいのです。修煉者は情を放下することができなければ、行なったすべては皆人間の行為になります。実は、情を重んじることはすなわち、この情を守っていることであり、あなたは常人にほかなりません。それを放下することができれば、あなたは情の中におらず、神になります。つまりこの道理です。

佛、菩薩、羅漢、神は情の中におらず、三界の外にいる神に人間の情はありません。しかし、人間の情がないというのは、他人を思いやらないということではありません。彼らにはさらに次元の高いものがあり、慈悲と呼ばれます。それはさらに高尚で、廣大で素晴らしいものです。情は三界内の要素の一つです。

弟子：福州の学習者から電話で、尊敬する師父にご挨拶を伝えてくださいと言われました！

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：シンガポールは多民族社会で英語が通用します。人口は三百二十万で、七十六パーセントが華人です。しかし、現在大法

を学んでいる人はごく少数です。多くは英語教育を受けており、中国語を聞くことはできても、読むことには問題があります。他の原因もありますが、以上は彼らが法を得ることの障碍と困難です。私も英語教育を受けたので、彼らの困難が分かります。師父、どのようにしたら、大法をシンガポールでもっと多くの人々に伝えることができるでしょうか？

師：この状況は他の地区においても見られます。オーストラリアにも中国人がいます。また、他の西洋の国の華僑は、完全に西洋文化の中で育ったので中国語が分かりません。しかし、彼らは法を学ぶことができないのでしょうか？ 英語の『轉法輪』を読めばいいのです。他の言語の『轉法輪』を学んでも、同様に法を得ることができ、問題はありません。

弟子：師父は地球上の人が皆、人間になるべき人ではないとおっしゃいましたが、弟子は次のように理解してもいいのでしょうか？ つまり、これらの人が下りて来る時、少しずつ悪くなったから落ちて来たのではなく、冒険して下りて来たのです。しかし、この世に来たら、迷いの中に陥り、多くの業を造りました。業をあまりに多く造った人は、完全に迷ってしまい、修煉できなくなりました。しかし、このようになって、師父はこの人が当初、法を得て来たというのを見て、どんな人であれ、修煉という一念が生じ、この門に入った人であれば、師父は彼を済度されます。

師：大体このような状況です。しかし、すべて正念をもって下り

て来たのではありません。落ちて来る人もいます。しかし、大法が人を済度する時、誰に対しても同じように扱います。私のこの門は、門がないほど開かれており、人の心だけを見ます。現在の世の中の人は皆、人間になるために来たのではない、と私は言ったことがあります。すべて佛、道、神になるために来たのでもありません。つまり、すべて修煉のために来たのではありません。しかし、皆、大法のために来たのであり、大法のために成り立ち、大法のために造られたものです。その中にはプラスとマイナスの作用を果たす人もいます。

弟子：弟子は法輪大法を学んでから、夢の中で二回先生を見ました。二回とも現在のお姿です。私は英語教育を受けた混血児です。私はどうして先生の法身を見ることができず、分身を見たのでしょうか？

師：それぞれの修煉の進み具合が違うので、私は皆さんにあまり具体的なことを教えたくありません。それぞれの状況が違うので、私の法身が見えない学習者もいます。皆さんも知っているように、私の法身は佛の形象をしており、髪が藍色で、黄色い袈裟を着ています。佛の境地に到達していない時、佛の形象を見ることは許されていません。こういう問題です。私は皆さんの向上に影響しないように、皆さんに関する具体的な状況をあまり話していません。見える人もいますが、見えたら歡喜心を起こしやすいため、私はこれまで具体的なことについて話しませんでした。しかし、それについ

て尋ねてくる人が絶えません。また、先天的な要素を持っているので、見える人もいます。このような人は非常に多くいます。私がすでに言ったように、人間は皆、人間になるためにこの世に来たのではありません。これが理由でこのような状態が起こっています。一方、修煉が非常に良くできている人もいて、彼をもっと早く突破させるために、見えないようにしたので、このような人は見えないのです。いかなる宗教も修煉方法も、あなたをその神よりさらに高いところまで済度することはできません。それに対し、大法はすべての衆生を済度することができ、修煉して到達する次元の高さはすべて修煉者本人にかかっています。なぜなら、これは宇宙の法であり、宇宙の中のすべての生命の生存環境を切り開き、あなたを先天の元の位置に戻らせることができるからです。しかし、要求も厳しくなります。とても高い次元まで修煉する学習者がいるので、その悟りを明らかにしてしまえば、永遠にその境地まで到達することができなくなります。

修煉の道は人によって違います。それぞれ皆違います。非常にはっきり見える人がいて、今日はこれ、明日はあれと見えていますが、何も見えない人もいます。見えないからと言ってその次元が低く、見えるからと言って彼がよく修煉していると思わないでください。修煉の次元はその人の心性の高さを見るのです。これは絶対です。歴史上のいかなる修煉も、機能を心性の高さ、次元の高さを量る基準にしませんでした。従来一度もありませんでした。

弟子：すべてのものが徳から転化してきたのであれば、師父から何かを得るとき、徳を失うのでしょうか？

師：私はこのような話をしたことがあります。つまり、皆さんは皆、修煉者で、厳しく自分を律するべきであり、誰でもこのようにしなければなりません。なぜなら、皆さんは修煉の中において、それは皆さんの修煉に対する要求だからです。しかし、私は修煉者ではなく、師父は皆さんを済度しに来ています。このことを皆さんははっきりと認識すべきです。ですから、永遠に私を皆さんと比べないでください。

弟子：すべての弟子の修煉の道を皆、圓滿成就まで按排したと師父はおっしゃいましたが、『轉法輪』の中に、「彼の身に付いているものと彼の忍耐力を合わせても限られている」と書かれています。

師：これは矛盾ではありません。すべての人に私は圓滿成就まで按排しました。しかし皆、同じ境地の中で圓滿成就するとは限りません。この道理ではありませんか？ あなた自身に備わっているもの、あなたの忍耐力、先天の位置は皆それぞれ違います。

弟子：「かなり低い次元のまま功を開き、悟りを開く」とありますが、このような人にとって、圓滿成就まで按排されても、どういう意義があるのでしょうか？

師：あなたがそれを意義がないと思っても、他の人にとっては意

義があるのです！ 修煉しない人は常人の中で少しばかりの成果があれば満足しており、非常に意義があると思っています。しかも、充実していると感じています。この道理ではありませんか？ それぞれの修煉者がどの次元で圓滿成就するかは、本人にとって非常に意義があります！

弟子：弟子はすでに一年ほど法を学び煉功してきましたが、動功をするたびに、あくびが絶えず、涙がたくさん流れてきます。これは何か執着心をまだ放下していないからでしょうか？

師：そうではありません。あくびをするというのは修煉の過程の状態の一つであり、修煉の初期によく見られる現象です。しかし、誰にも現れるとは限りません。この状態は必ずあるものではありません。初期のころ、身体から生じた気が脳に走り、それを排出するとき、あくびをするのです。悪いことではありません。初期に身体を調整し、頭にある病気を取り除くときも、このような状況が現れます。皆修煉の過程での現れです。

弟子：あることに対してそれぞれ自分の意見を固持しているとき、執着心と自分の意見への固執とをどのように区別するのでしょうか。例えば、あることのやり方に対して異なる意見があり、一つの方法しか採用できず、しかもそれぞれの見方は皆、法の異なる次元での現れなので、自分の認識に従って行なうのか、それとも組織の要求に従うのでしょうか？ すべての弟子が皆、法を師にすること

をどのように体現したらいいのでしょうか？

師：問題に対処するとき、それぞれ違う意見がある場合、話し合いを経て大法を第一にし、自分の意見を必要以上に強調すべきではありません。最終的に決まったら、一緒にそれを実施すべきです。各自が自分の意見を放さず、長期にわたって議論し、統一することができなければ、それはすでに法を破壊する魔または魔性に利用されているのです。自分の意見を固守してどうしても放さなければ、それは自我に対する執着です。

弟子：人はあることに対して見解を持つことで、自己観念が形成されますが、修煉者が常人と違うのは、観念に対する心の持ち様が違います。常人は自己観念の正確性に執着し、他の人にも認めてもらいたいと思っています。それに対し、修煉者は自己の見解を持っていても、それを他人に押し付けません。このように理解するのは正しいのでしょうか？

師：絶対に正しいとは言えません。修煉者は安易に常人の中で観念を形成しないからです。すべてにおいて法に則り、法をもって謎を解き、常人の観念を破り、法をもってすべてを見るのです。正念を固めて法を守る以外、常人のことに対して行なっても何も求めず、成功してもしなくても執着しません。固定観念はなおさら持つてはいけません。

議論されていることに、大法弟子はどのように対処すべきでしょうか？ 正念をもって対処しているのでしょうか？ 特に意見が激しく対

立している場合、自分を見るべきです。自分の心がどこに置かれているか見るべきです。百パーセント法の上に置いているでしょうか？自分の意見を固守する時の基点がどこに置かれているか、必ずこの考えの根源を見なければなりません。

弟子：私たちの周りに一種の悲観的な気持ちがある学習者がいます。つまり、自分は三界内の生命であるかもしれないので、いくら頑張っても三界を出ることはできないと思っています。この考えは正しいでしょうか？

師：彼が三界内の生命であると誰がそんなことを教えたのでしょうか？ 私はいかなる人に対しても、「あなたは修煉することができない」と言っていません。「あなたがどのような人であっても、何をしに来たにしても、法を破壊するために生まれた人であっても、私はあなたを済度する」と言っています。（拍手）

皆さん知っているでしょうか？ 今日の大法の学習者は確かに非常に多いのです。もし私たち自身が良く行なうことができなければ、これほど多い人数なので、政府の一部の関係部門は私たちに対して目を付けるかもしれません。実はずっと私たちを調べている人がおり、学習者と一緒に煉功しているスパイもいます。彼らはずっと私たちを観察しており、何をしているか見えています。私がこのことに対してどのように思っているか、皆さんは知っていますか？ どんな仕事をする人であっても、皆、衆生の一員であり、その人はまず一つの生命です。その人に対して、私はただそれが人間の仕事の違

いにすぎないと思っています。彼らがどのような心でこの環境に入って来たとしても、私は必ず善の念で対処します。修煉さえしたければ、私はその人のために責任を持ちます。ですから、大法を調べるために入ってきた政府部門の人たちは、私たちに何も隠しごとがなく、良くないところもないと分かった時、かえって大法が良いと思うようになり、真面目に大法を学び始めました。後に彼は、「私が誰であるか知っていますか？ 私はスパイです。皆さんがとても良いと分かったので、私も今から学びます！」と学習者に言ったのです！（拍手）

私たちの大法は、誰かが調べることを全く恐れてないのです。すべての学習者、すべてのスタッフは皆、このようにすることができると思っています。つまり、調べたければ、知りたいことがあれば、すべて教えます。見たいものがあれば、それを見せます。何も隠す必要はありません。すべては正々堂々としています。なぜなら、ここはこの世の唯一の浄土だからです。今日の人類は、大法のことを理解する前に、もう良い人が存在するとは信じていません。もし私たちが理解せず、この環境に入らなければ、この世界にそんなに良い人がいるとは、本当に信じられないのです。

弟子：私はよく睡眠から目覚めたばかりの時、または歩いている時、脳の一部が『轉法輪』の内容を暗唱していますが、私の意識は常人の中のことを考えています。これは修煉してできた部分が暗唱しているのでしょうか？

師：そうです。このような状態が現れることがあります。修煉して良くできた部分ははっきりしており、まだできていない人間の部分が進んでいないことに焦っています。

弟子：夫は三月のニューヨーク東部法会の時に質問を出し、先生は、心を入れ替え、生まれ変わり新しい人間になるように彼を励まされました。彼も先生のおっしゃる通りに着実に修煉すべきだと分かっていますが、いつも深い悔恨と自責の念に陥り、抜け出すことができません。しかも、強烈な魔にも妨害されています。すでに四か月も経ちました。

師：ご主人の主意識が弱すぎて、はっきり自分を主宰することができないからです。私が彼の誤りを指摘したら、彼はまた自責の念に陥ってしまい、極端に走り、執着してしまいました。魔はこの時、彼のこの正しくない心を利用して妨害しています。

弟子：彼は引き続き修煉することができるのでしょうか？

師：これは彼に聞くべきです。精神病患者は修煉できないと私は言いました。皆さんも知っているように、この大法はあなたの主意識を修煉させるためのものであり、他でもなく、あなたに与えるものです。皆さんははっきり分かった上で、自分で修煉しなければなりません。今までのすべての修煉方法は、今までのすべての宗教も含めて、皆副意識を修煉させるものでした。人が死ねば、主元神は相変わらず輪廻転生しますが、基準に達した部分は天国に上

がります。しかし、それは本当の自分ではなく、副元神です。この千古の謎はこれまで明かすことができなかったのですが、今日私はこの大法を伝え、皆さんが済度されるために、これらの千古の謎、秘中の秘、天機の中の天機をすべて衆生に伝えています。もし自分自身が修煉することができず、自分がはっきりしていなければ、この法は誰に与えたことになるのでしょうか？ 誰が得ることになるのでしょうか？ ですから、あなた自身の主意識がはっきりしていなければなりません。はっきりしていなければいけません。ですから、私は再三、皆さんに言っていますが、理性的に、正々堂々と修煉してください。

弟子：坐禅の時、座布団で後ろを高くし、腰を支えてもいいでしょうか？

師：とりあえずは構いません。あなたに修煉の過程を与えなければなりません。しかし、将来はだめです。なぜなら、将来あなたはきっと修煉してよくできるようになるからです。

弟子：夢の中で、師父は「真を偽まで修め、偽がなくなるまで修めれば、修煉は成就します」とおっしゃいました。

師：二つの方面からこのことを見るべきです。まず、人類社会のこの現実を神の目から見れば、それは本当のものではありません。また、これはあなたが執着している真実に対する啓示です。あなたが具体的に執着していることに対して告げています。私はこのように

あなたに教えるしかありません。私があなたに与えた啓示を、私に解釈してもらってはいけません。それでは、あなたに啓示してどうするのでしょうか？

弟子：真・善・忍の順序に何か特別な意味合いはあるでしょうか？

師：圓容しているのです。「真」の中に真・善・忍があり、「善」の中にも真・善・忍があり、「忍」の中にもまた真・善・忍があります。

弟子：『轉法輪』の中で、先生が佛道両家について言及される際、いつも道家を佛家の前に置いておられますが、これは真・善・忍の順序と関係があるのでしょうか？

師：これらのことに気を取られないでください。特別な関係はありません。佛道神、私は言いやすいのでそう言ったのです。道佛神と言ってもいいのですが、言いにくいのです。神道佛でもいいのですが、やはり言いにくいのです。真・善・忍は言いやすいでしょう！ 順序を変えても構いませんが、言いにくくなります。私が言うように皆さんも言えればいいのです。

弟子：私は真面目で慎重な人間ですが、せっかちなところもあります。この心の状態がすでに修煉の障碍になっていると感じています。

師：大きな障碍ですね。これを察することができれば、非常に素晴らしいのです。

弟子：これは後天的な観念と業力によってできたのでしょうか？それとも先天的な特殊性でできたのでしょうか？

師：観念によるものです。それはこの種の観念で、長い間に養成されたものです。何かに遭ったらすぐに、この観念の中に入り込んでしまいます。いわゆる慎重さ、真面目さ、せっかちさというその性質は、一種の習慣となっていますが、取り除くことができます。

弟子：これほど苦しい環境の中でも修煉しようとし、本当に素晴らしいと師父はおっしゃいましたが、私はかえって、この世があまりに苦しくつまらないから、修煉しなければならないと思っています。私は苦を嘗める力がないのでしょうか？

師：これは違います。私は私と神々の人間に対する見方を話しましたが、あなたの感じ方は、世の人々が普通に思っている感じ方です。人類社会は確かに非常に苦しいのです。いかなる空間の生命も飛んだり、漂ったり、大きくなったり小さくなったりすることができ、すべては自由自在なのです。人類と表面の殻の空間だけがこの状態です。生まれた時から、この空間のすべてに束縛され、歩けば疲れ、食べなければお腹が空き、飲まなければ喉が渴き、薄着をすれば寒くなるなどです。これは自然にこの空間に入ることによってもたらされた苦です。もちろん、人と人の間の心性のトラブル、

業力の作用、無知の中で絶えず作ってしまう業、また自分では気づかない苦、言い表すことのできない苦もあります。ですから、人類はとりも直さず苦しいのです。

弟子：金属に触れると手から電気が走る学習者がいますが、すでに一年あまり続いています。先生にお聞きしたいのですが、これはずっと同じ次元にいるということでしょうか？

師：違います。修煉の中で現れるすべてのエネルギーは、つまりあなたの功とあなたの身体の変化など、人間にとってその多くが電気を帯びています。人間は電気に最も敏感です。電気は実はエネルギーの一種の現れです。他の面から言えば、修煉のあるところにおいて精進していなければ、またはあるところが少し劣っている場合、学習者を悟らせていることもあります。もう一つの場合ですが、修煉の中で次元が高まる時、人体の表面においても突破があります。対応する防電の機能の進み具合も差があるので、このような現象が現れることもあります。いずれも些細なことであり、重要ではありません。すべて調整され良くなります。

弟子：シドニーに大法を攻撃している人がいますが、裁判でその人を訴えると主張している人がいます。これは常人の手段を用いて常人と戦うことだと私は思っています。この考えは正しいでしょうか？

師：まず、学習者を肯定的に見るべきであり、大法を守りたい彼

の心は間違っています。その人がどのように法を破壊しているか見るべきです。もし大法に対してある程度の影響を及ぼしたら、学習者が法を守りたいという立場から、法律の手段で問題を解決しても間違いとは言えません。もちろん、できるだけこれらの手段を使いませんが、どうしても法律の手段で解決する必要がある場合、それもいいかもしれません。しかし、人を済度しているのです、やはり寛大な態度でその人に機会を与えるべきです。その人が無意識のうちに大法を破壊することがあったとしても、彼に認識の過程を与えるべきです。まずその人に説明して、それでも続けるなら、法律の手段を講じて構いません。なぜなら、オーストラリアの大法学会は登録された合法的な団体であり、法律上も合法なので任意に攻撃されてはいけないからです。しかし、このような出来事の多くは個人の修煉と関係があり、自分を見なければなりません。自分の執着心によるものか、または取り除かれていない執着が作用しているのか、自分を見るべきです。

弟子：修煉中の状態は何千何万もありますが、修煉中の状態に正しく対処したかどうか、どのように自分を見るべきでしょうか？

師：個人修煉の中で現れてきたすべての感受と状態を、修煉中の正常な状態とみなすべきです。修煉の中で、誰もがすべての関をしっかりと乗り越えたいと思っており、自分がしっかりと乗り越えたかどうか知りたいと思っています。実は、利益の前に平然として動じなければ、すでに乗り越えたことになります。トラブルの前でまず自分

の原因を探し、自分を正すことができれば、つまり乗り越えたことになります。各種の試練の中で執着を放下できれば、乗り越えたことになります。もちろん、乗り越えてもその程度が違います。すべてできる学習者もいますが、表面だけはやり遂げても、心の中ではまだ放下できない学習者もいます。また、見かけはよくできましたが、心の中ではまだすっきりしていません。つまり少し残っているのです。これはすぐ判断できます。

しかし、すべての関は皆さんがしっかり乗り越えなければならず、それができなければ、修煉の基準に達することができないのでしょうか？ あなたはだめになったのでしょうか？ そうではありません。皆さんに教えますが、修煉は取りも直さず人の心を修めるのです。私がいくら明白に説いても、利益を前にして、怨念を前にして、あるいは人と人とのトラブルの中で、あなたの心が刺激されるのです。本当に平然として動じなければ、それは本当に素晴らしいのです！ある関を乗り越えることができないとき、「この関を乗り越えることができなかったから、私はもうだめになったのだろうか？」と皆さんは思いますが、そうではありません。認識の高い人もいれば、低い人もいます。この関をしっかり乗り越えた人もいれば、少し劣っている人もいます。全く乗り越えられなかった人もいます。しかし、皆さんは後悔し、自分は意気地がないと思っています。そして、次回必ず乗り越えられ、この足りないところを補おうと決心します。実はこれが修煉なのです。すべての関を乗り越えることができれば、私に言わせれば、それは修煉ではなく、師父である私は責任を果たして

いないこととなります。つまり、あなたのために設けた難が小さすぎて、あなたの心性はそこから向上できなかつたということです。そうではありませんか？

弟子：日本の弟子は師父にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：私はすでに三年余り修煉しましたが、母は去年の三月に亡くなりました。母も三年間修煉しました。私はよく、自分の多くの不足で母の難を大きくしたことを後悔しています。母が生死の関にぶつかった時、私は大法の厳肅性をはっきり認識できず、法に基づいてしっかりと母を助けることができず、自分を責めています。

師：別に自分を責める必要はありません。責めすぎると、それも執着になります。皆さんはそれぞれ修煉の中において、過ちを犯すこともあるかもしれませんが、それが他の人に決定的な影響を与えることはありません。相手も修煉者の場合は特にそうです。修煉は一人一人の各自の事です。妨害の前に、平然として動ぜず、自分を制御できれば、それこそ修煉と言えます！ 他の人の行いが良くなかつたため、その人をあまり助けられなかつたということですが、もし修煉者が皆、他人からの助けを頼りにしていれば、その人が自分で修煉したことにはなりません。これに対して、別に自分を責める必要はありません。足りないところがあれば、教訓を汲み取り、自分がさらに良く行なうようにすればいいのです。いくつかの方面か

ら見るべきです。あなたが思っているほど悪くないかもしれません。人々は大法を学びましたが、決して無駄にはなりません。将来あなたが圓滿成就すれば彼女は済度されるかもしれません。

弟子：物質の構造について説いていただけないでしょうか？

師：これは非常に大きな問題ですよ！ どのレベルの物質の構造でしょうか？ どの種の物質の構造でしょうか？ これは非常に複雑なのです。分子の表面の配列順序はすでに現在の科学で認識されました。物質の構造の全体は話しても話しくせません。私が何日話しても話しくせません。私が宇宙の概念を説いた時、最大限に人間の認識、考え、人間の言葉で皆さんに説きましたが、それは非常に限られたもので、大まかな話にすぎません。それでも、私は概括的に宇宙にある一種の物質の存在方式を説いただけです。しかも、人類の言葉は非常に乏しく限られています。ですから、人類にそれを言い表せる言葉はありません。

弟子：私たちのこの空間に起こった出来事の順序は、時間概念のない空間でどのように現れるのでしょうか？ 年代で直接現れるのですか？

師：この前、ある若者が「 $1 + 1 = 2$  は真理です」と私に言いました。常人の中でこれは真理ですが、この空間を離れると真理ではなくなり、異なる時空の状態の中では、それは真理ではなくなると私は答えました。異なる時空の状態の中では、人間の概念で

それを量ってはならず、そこにはその時間の計算方式、生存方式や物事に対する認識の方式があります。それは完全に異なります。良し悪し、正と反に対する認識までも人間の認識とは異なります。

弟子：皆それぞれ返さなければならない自分の業があり、自分の業は自分で償わなければならず、他人は勝手に干渉してはなりません。もし命の危険に晒されている人がいれば、修煉者としてどのように対処すべきでしょうか？

師：これについて、私はすでに数回説きました。修煉者は常人のことに干渉しませんが、殺人や放火をしている人がいるのを見て手をこまねいていれば、それは心性の問題です。私が言っている「無為」とは、執着心を抱いてどうしても何かをしようということがないように、ということです。

弟子：香港の学習者は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：『轉法輪』を読む時、雑念が頭に入ってくるのですが、どのようにこの問題を正しく扱い、対処すればいいのでしょうか？

師：これは非常に自然なことで、誰でも遭遇することです。しかし、必ずそれを克服しなければなりません。これは後天的に形成された観念と頭から生じた業力によって引き起こされ、あなたの修煉と、法を得ることを妨害しています。それを排斥し、確固として注

意力を集中し、本を読み、法を学びます。このようにすること自体がそれを消滅しているのです。法なので、法を学んでいればそれを消滅しています。決してそれに影響されてはいけません。目は字を追っていますが、心ここにあらずで、見ている字を何と読むかも分からなくなってしまうと、それではいけません。読んでも無駄です。

弟子：心性の関にぶつかるたびに、その時は乗り越えたと感じますが、しばらくして振り返ると、しっかり乗り越えられていない、または乗り越えられなかったと気づきます。これは次元の向上による感覚なのでしょうか？

師：そうです。修煉を通じて次元が高まってから、振り返ってみるとこのように感じます。実は基準が高くなったので、あなたに対する要求も厳しくなったからです。

十分間休憩してもよろしいでしょうか？

(学習者は師父に花束を捧げ、最も崇高な敬意を表しました!)

(拍手)

師：ありがとうございます！（拍手）花はとても高そうですね！このことにお金を使わなくていいのです。これらのことにこだわりません。でも、皆さんに感謝しています。（拍手）

弟子：他の気功を学んでいた学習者がいて、二、三時間坐禅す

ことができます。彼らは自分たちが坐禅できない学習者より優れていると思います、法を学ぶことと心性の修煉に力を入れていません。どうぞご教示をお願いします。

師：身体の先天的な条件にかかわらず、本当に大法に入ってきたら、違ってきます。以前体操やダンスをする学習者がいて、脚は非常に柔らかいので、すぐ脚が組めるようになり、非常に楽です。しかし、それは煉功でしょうか？ 違います。本当に修煉しようとするとき、情況が違ってくると気づくに違いありません。ダンスをしていた脚は組めなくなり、しかも非常に痛いのです。なぜなら、修煉者の坐禅は決して機制のない単なる坐禅になつてはいけなからです。これは修煉なので、あなたのすべてはあなたの向上のために責任を負わなければならず、坐禅も含まれています。坐禅は本当にあなたの業を滅し、心性を高めるなどの作用が働かなければなりません。坐禅の時間がいくら長くても、何の役に立つでしょうか？ 業力を減することができず、修煉の中で作用を働くことができず、坐禅のために坐禅をしていれば、時間が長くても何の役割があるでしょうか？ そうでしょう。私はここで誰かを責めているのではなく、法理を説いているのです。坐禅の時間の長い人は、次元が高く、修煉が良くできていると私は従来言ったことはありません。以前他の気功を習い、またはダンスや体操をしていたので、そのとき脚を組んでも痛くなかったのです。今もそのときと同じで何の変化もなければ、それは小さなことではありません！ 大法とすれ違ってはいけません！ 真に法を学ばなければ法の貴重さも分かりません。脚の

組めない人は焦らないでください。執着になってしまえば障碍になります。ゆっくり組んで、まず片脚を組んでください。最終的にぎつと組めるようになります。八十歳の方が脚を組んだことがないのに、最終的にできるようになりました。あなたはなぜできないのでしょうか？ 誰でもできるのです。

弟子：弟子は数年間法を学びましたが、一切の奥義の洞察からまだほど遠いと感じています。

師：実は、あなたに教えますが、これは表面の修煉してまだできていない人間の部分が、神のことを知ろうとしているのです。しかも、考えの中でこれらのことに執着しているのは、後天的な観念と思想業力なので、どうしてこれらのものが神のことを知ることができるのでしょうか？ しかも、あなたは本当の自分の正念が何であるかを見分けることができなかつたのです。修煉の過程で、『轉法輪』を読んで、突然一つの法理が分かつた時、あなたはすでにその次元にいます。そうでなければ、その次元の法理は決してあなたに開示されることはありません。どうしてすべての法理を一気に知ることができないのでしょうか？ 修煉してまだできていないあなたの人間の部分は、決して神佛のことを知ってはいけないので、できたその部分は隔離されたのです。あなたは法を学ぶ中で徐々にさらに高い次元の理を理解するしかありません。これはすでにあなたに与えられた一種の啓示です。しかし、修煉してできたその空間では、修煉者は瞬時にその基準に達し、できたその部分は、直ちに宇宙に

おける自分のいる境地での一切の法理を知るようになります。私に会って質問を何も出せず、何も話せない学習者がいます。実は皆さんは何でも分かるようになり、修煉してできた部分は私に会うと直ちに活発になったので、まだ修煉できていない人体の表面も分かるようになりました。人間のまだ修煉できていないこの部分は、いつまで経っても聞きたい質問があります。ですから、私から離れると、人間の表面が急に質問をしたいことに気づきました。「しまった、質問があるのに、なぜ先生に聞かなかったのか？」という状況です。多くの人はこのような状態です。

弟子：修煉過程で、精進して佛法を修煉することに影響する要素をずっと注意深く研究しており、自分自身の修煉がさらに良くなるように促したいと思います。

師：別に研究するほどのことではありません。他でもなく執着心の問題です。私は皆さんにこれ以上明白に説くことができないほど法理を説きました。昔これらのことは皆、人に悟らせるものでしたが、私はすべて明らかにしました。くれぐれも大法を研究するという心を抱きながら法を学ばないでください。問題にぶつかったら、自分の考えからそれを探せばいいのです。問題はそこにあります。執着を取り除くことができれば、きっとその関を乗り越え、事をうまく運び、向上することもできます。

弟子：法理に対する理解と認識について、いつも自分と近い人、

またはあることに対して同じ悟りを持つ人と交流し、切磋琢磨するのも執着でしょうか？

師：自分と話の合う学習者と接触したいという考えに、人心が作用しているかどうか見るべきです。もしそれがなければ別にいいのですが、間違った要素があれば、精進の障碍になり得るのです。

弟子：法に対する理解が違ったとき、またはある事に対する悟りが違ったとき、いかに自分の固有観念を取り除き、より良く向上できるでしょうか？

師：修煉者が他の人と同じ次元で同時に向上することはあり得ないので、あなたと他の学習者にそれぞれ違った見方、法理に対する違った認識が存在するかもしれません。皆さんのそれぞれの次元における法の理解が、つまり差異となります。すべての学習者は進歩していて、精進していますが、法に対する理解はそれぞれ異なるかもしれません。いかなる場合でも、皆さんがどんなことをするにしても、大法の仕事を含め、できる限り大法を最優先にし、大法を実証し世の人を救済度することを最も重要とし、大法を守ることを第一の根本的な考えとすべきです。常人に対して法を広めるのであれば、行動の上で常人が理解できるようにし、法の最も表面的な理を常人に示すべきです。自分自身が認識したさらに高い次元の法理は、次元がいくら高くなっても、それを言い表すことができないので、心で会得するだけです。また、超常的な理をもって常人に働きかけてもいけません。しかし、常人と混同してしまうこともし

てはいけません。

弟子：師父は、すべての空間の生命体は私たち常人のような身体を持っていないとおっしゃいました。

師：そうです。すべての空間の生命体は人間のこの次元の分子で構成された身体を持っていません。しかし、三界の外にある、それほど高くない次元には特殊な状況があります。極めて少ない次元にこのような状況があります。

弟子：ですから、病気に罹ることもなく、生老病死の問題もなく、苦痛もないのです。他の空間の人は浮き上がることができ、重さもなく、非常に素晴らしく気持ちがいいのです。しかし、死んだ人は人間の肉体という殻から抜け出したにもかかわらず、なぜ苦しみがあるのでしょうか？

師：それは人が死んでも三界から離れていないからです。三界内の人は皆、人間と呼ばれ、苦しんでいるのです。三界の高いところに行けば行くほど、次元の低い人より少し心地よくなるだけです。この世の人間はまだ最も苦しいものではなく、実は人間より次元の低いものはまだあります。さらに、地獄もあり、地獄よりも次元の低いものも多くあります。人間は神と比べて最も苦しい存在です。生老病死の問題は三界内のすべてのところに存在し、人間だけにあるものではありません。通常、人の主元神が身体から離れたときでも、三界から離れておらず、まだ三界に留まっています。そして、死後

に上へ転生していきます。三界にある高い次元での苦は人間の空間の苦より少ないのです。もし、人間にも劣り、それより下の次元にいれば、人間より苦しいのです。三界内の各次元の人は人間と総称されます。しかし、天上の人は私たち地球上の人を人間と呼び、天上の人を天人と呼ぶのです。

弟子：南京の弟子は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：深センの学習者は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：私は一年前に大法と接触し、大法が非常に素晴らしいと思っています。しかし、私は宗教を信仰していて、宗教を放棄したくありません。大法の要求に基づけば、不二法門を遵守すべきですが、私は大法と宗教のいずれかを選択することがなかなかできません。私はどうしたらいいのでしょうか？

師：これはやはり自分自身に聞いたほうがいいと思います。何を選びたいか自分で決めることです。法理はすでに明白に説きました。道はあなた自身が歩むものですが、私は修煉界の実情を皆さんに教えました。当時、中国で功を伝えていた時、私が講義を始めると、あまり離れていないところで偽気功が必ず講義を始めました。人間は自分自身で正と邪を選ぶのです。今日、私たちはこちらで法

会を開いていますが、あちらでも何かの宗教組織が会議を開いているのではありませんか。いずれにせよ、邪悪の旧勢力は相生相克の理を利用して、世の人々が済度されるのを妨害しています。法を得ることは見た目では簡単なようですが、実は簡単ではありません。現在すべての正教は神に手放され、宗教の中にいる人は皆金銭と地位のために争っています。人間がなぜ宗教を信じるかは一つの大きな問題ですが、これらの道理は私がすでに非常に明白に説きました。信じるかどうか、何を選択するかはあなた自身のことです。あなたは自分が修めたいものを修めればいいのであり、修めたくなければ修めなくても構いません。私は人の心しか見ておらず、いかなる形式上のものもありません。

弟子：大法弟子が圓滿成就する時、身体の変化に二通りの状況があります。一つは身体が高エネルギー物質に取って代わられることで、もう一つは、元嬰が身体に取って代わることです。この理解は正しいでしょうか？

師：私は今日、皆さんに最も良いものを与えています。しかし、それぞれの状況が違うので、肉体を与えても欲しくない人もいます。その人が肉体を持って戻れば、そこの神はそれがおかしいと思うので、肉体が欲しくありません！ 何でも欲しいと言っている学習者もいますが、実は皆さんは人間の考えでこれらのことを考えています。あなたが分かった時、悟りが開いた時になると、今と全く違った考えを持つようになります。なぜなら、その時になると、皆さんに人間

の考えがなくなり、完全にその境地に立って物事を考えるからです。実は大法の修煉においては、どんなものでも修煉を通じて現れてきます。学習者に必要なものであれば現れてきます。なぜなら、これは宇宙の根本的な法だからです。

弟子：弟子の護法の神は皆、師父が遣わされたのでしょうか？

師：正法を修煉する場合、師父と神々、神兵によって見守られているのです。しかし、他の宗教の中の言葉と概念を使用しないでください。不純な要素をもたらしてしまう恐れがあります。大法を修煉している皆さんはともかく、多くの汚れた服を着てだらしない人々が、破れた布団を抱えてどこでも寝ています。彼らを見れば乞食のようですが、その周りには天龍八部が護法しています。人々は彼が何者なのか分かるのでしょうか？ 分かりません。人間は人間の目で物事を見えています。修煉してから大胆になった学習者がいて、以前、夜道を歩く勇気がなかったのですが、大法を修煉してから歩けるようになりました。これらのことには皆、原因があります。

弟子：江西省景德鎮の学習者は師父にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：常人の中で身体障害者の福祉を受けていますが、法を得てからこの福祉を受けてはいけないのでしょうか？ 受けたら、業を返すことができないのではないかと心配しています。

師：この問題は、二つの面から見るべきです。あなたが身体障害者で、働くことができず、生活を支える収入がなく、国にこの政策があれば、私が思うには、受けても構いません。なぜなら、最大限に常人に合わせて修煉すべきであると私は教えたからです。私はこれらの形式を見ず、人の心のみを見ています。現在の人類社会では、法律がこのように規定し、社会もそれを認めているのであれば、この点において最大限にそれに合わせていいのです。もし、身体の病気が大法を修煉することによって治ったにもかかわらず、この福祉を受け続け、政府に報告しなければ、これは心性の問題です。このように見るのです。他に各種の手当てがありますが、常人社会の条件を満たしていれば、受領しても問題はありません。

弟子：煉功の時、思想業力またはその他の情報による妨害が現れてきて、私がそれを排斥する前に、その反応はなくなっていました。

師：速すぎてすぐに反応できなかったのは、修煉が良くできていないということではありません。間違いだと分かっているながら放置していれば、それは自らを修めていないことになります。もしそれを放任して行動が支配されてしまうなら、それは常人です。実はそれに気づき、それが自分ではなく、この考えが良くないと気づいたとき、実際にはあなたはそれを排除しているのです。普段から法を学び、基礎をしっかり築いておけば、状況はもっと良くなります。常人は修煉しておらず、全くこれらのことを意識することができず、すべて

の考えが皆、自分自身のものであると思い込んでいます。結局のところ、常人の中で形成された観念が人を支配してあらゆることを行わせているのですが、人はそれを自分自身がやっていると思っています。自分自身はその時、埋没して覆われ、何の作用も果たせず、全く自分自身ではなくなったのです。現在、社会で人々は皆このように生きています。損をしたり、騙されたりすることがめったにないので、この人は有能で、老練であると他人に言われると、自分が褒められていると思っています。しかし、私に言わせれば、このような人はこの上ない愚か者です。彼はこの一生を自分で生きてはおらず、自分をほかのものに預け、そのものが彼の代わりに生きています。彼の身体はほかのものに制御されています。

弟子：私は自我を見分ける方法を取ったにもかかわらず、それでも完全に根絶することはできませんでした。

師：あなたがそのものは要らないと言うだけで、そのものが死んでしまうのであれば、これはあまりにも痛快な話です。そのものを見極めることができると同時に、あなたは強くなり、目覚めてきたので、そのものによる包囲を突き破っているのです。あなたがますます強くなれば、そのものはますます弱くなり、消失していき、最終的に消滅されてしまいます。これには過程が必要です。

弟子：功に良くないものをもたらす恐れがあるでしょうか？

師：ありません。あなたの正念が作用しているからです。気を付

けなければ、隙に乗じられますが、功は妨害されません。なぜなら、師父があなたを見守っており、あなたは法を学ぶことに力を入れ、正念を保持し、問題にぶつかったら自分を探し、自分の問題を探しているのです、それらは怖くてたまりません。自分が気づかれれば消滅され、おしまいになるとそれらには分かっているからです。

弟子：生きている間に、圓滿成就まで修煉することができなければ、業を持ちながら転生することができるでしょうか？ 法輪世界で続けて修煉するのであれば、極楽世界のようなものでしょうか？

師：宇宙で法が正されており、天体が建て直されています。法が正された後のすべては最も素晴らしいので、基準に達していないものは、それより高い基準を持つ次元の中の生命にはなりません。基準に相応するところにいるのです。実は皆さんに教えますが、以前、極楽世界ではこのような情況はありましたが、法が正された後はどうなるのか、何とも言えません。業を持ちながら往生することは人が思ったような情況ではありません。人間はそれを人格化し、人間味をもたらし、感情化しています。業を持ちながら往生するとはどういうことでしょうか？ 皆さんに教えますが、本当に業を持ちながら往生できる人は、その決意の固さと信念においてすでに基準に達したのです。人が最も乗り越え難い関、修煉の際に必ず乗り越えなければならない関は、他でもなく生死を放下する関です。もちろん、誰もが生死の前に試練を受けなければならないということではありませんが、それが必ずしもないとも限りません。自分にとつ

て最大の難関と最大の執着を前にし、それを放棄できるかどうかは、実はこの一步を踏み出すことができるかどうかを試されているということです。生死を放下できれば、あなたは神ですが、それができなければ、あなたは人間にほかなりません。もちろん、生死を放下することは、本当に死ぬということではありません。ここで修めているのは、人間の心を取り除くことです。死ぬ時に、考えの中に死亡する時の恐怖が全くないということは、常人にできるのでしょうか？ もうすぐ死ぬとはどういう心情なのでしょう。いかなる修煉や思想の基礎がなければできないことではないのでしょうか？ 死を全く恐れず、死ぬ間際にまだ佛を唱えており、しかも彼は恐れていないどころか、佛を唱えることによって彼の心の中には一種の喜びが生じます。このような佛に対する喜びを持って去っていくのです。この人は地獄に落ちるのでしょうか？ 彼は揺るぎない正念で生死を放下したのであり、これはすでに人間としての行為ではなくなりました。死を恐れない人間がいるのでしょうか！ 口で佛を唱えており、佛はこのような人を見たら、彼を受け入れずにいられるのでしょうか？ もちろん、彼にまだ業力があり、精進して修めなかったので、まだ取り除かれていない心があります。どうしましょうか？ 彼を極楽世界に非常に近いところに置き、そこで続けて修煉させるのです。数万年、数十万年修煉して、基準に達してから、初めて極楽世界に行くのです。どうしてそれほど長い時間がかかるのでしょうか？ そこには苦がないからです。苦がなければ、修煉が遅くなります。人間のこのところで修煉する場合はなぜ速いのでしょうか？ なぜ一生の数

十年で成就するまで修煉できるのでしょうか？ 私の大法弟子ならさらに速いのです。人間のところは苦しいからです。皆母胎から生まれ、お互いに皆、同じなので、苦のない状況と比べることができないため、苦を感じることもできません。実は神から見れば、人間はとても苦しんでいるのです。大法の修煉は決して無駄になることはありません。個人修煉の段階で精進しておらず、または精進の足りない、悟性の劣っている人がいますが、寿命が尽きる時になると、このような人も何かを得ることができます。当然これは按排があります。来世、続けて修煉したいという願望があれば、修めたものが失われて無駄になることはありません。得たものをもって転生し、転生してから続けて修煉します。このような状況があります。また、確かにこれ以上修煉できない人の場合、来世に福報として按排されます。なんとと言っても、苦を嘗め代価を払ったので、正果に至らなかったのですが、それを福報にし、来世は高官または大金持ちになるようにします。もちろん、これは私たち修煉者が求めることではありません。この人は修煉を続けられなくなったため、このようにしたのです。

もう一つですが、ある学習者の息子が修煉して圓滿成就したとしましょう。彼も修煉しましたが、圓滿成就することができませんでした。その息子は圓滿成就しました。彼の息子は彼を自分の世界の衆生として自分の世界に迎えるかもしれません。この場合、彼は果位がありません。衆生になったので、庶民になります。佛の世界にそのほかの衆生もいますが、この世にいるこのような汚い人間では

なく、それはその境地の基準に達した天人です。

弟子：長春の弟子は師父にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：「自我」に対する執着は最も取り除きにくい心でしょうか？

師：もちろんそうです。人々はこの世で生きており、皆、自分のために考えています。それによって多くの私心が生じました。私心があれば、情に動かされやすくなります。修煉の中で、どんなことも放棄しにくく執着を取り除きにくいという現象として現れてきます。大法のために何かをするときも、自分の役割、自分の名、自分の好みを守ることに執着することも現れます。常人なら、その現れはもっと複雑なのです。幹部になりたいとか、先祖の名を上げたいとか、自分のことを人に褒めてもらいたいとか、金を好み、人より地位が高くなりたいなどがあります。自分の好みを守ることは情の現れであり、私心のため自我のための現れなので、最も取り除きにくいのです。慈悲をもってすべての人に対処すべきであり、いかなる問題に遭遇しても自分の原因を探すべきです。人に罵られ殴られたとしても、自分を探し、自分のどこかが間違ったから引き起こされたのではないかと見るべきです。これはトラブルの根本的な原因を見つけ、私心や自我のための執着を取り除く最良の方法でもあります。心を広く持ち、個人修煉の中であなたの敵を含むすべての人を許すべきです。なぜなら、あなたが言っている敵は人間が判断したも

の、利益のために判断したものであり、神の行為ではないからです。ですから、要求もかなり厳しいのです。神が人間を敵とすることがあり得るでしょうか？ 私たちは修煉の過程で、いかなることに遭っても、まず他人を考えるべきです。他の人の何かを得たときも、相手がこれを失ったら、何かの損害を蒙るのではないかと、彼はこのために苦しんでいるのではないかと、まず相手を考えるべきです。いかなることににおいても、まず相手を考え、相手のことを考えてから自分を考えるのです。私は他でもなく、皆さんが自分のことより他人を優先的に考えるという正法正覚しょうぼうしょうがくの圓滿成就まで修煉するように願っています。これは私心を取り除くことであり、これで「自我」を取り除くことができます。皆さんが修煉によってできたその部分は、きっと私が先ほど言ったような状態です。皆そうなのです。ですから、皆さんのところで見れば、問題に遭ったら自分の中の原因を探し、他人のために多く考え、自分を修め、内に向けて探し、他人の足りないところをあまり見ず、すべての出来事に対して私の言った通りに行なうことができれば、皆さんは実はすでに精進の中にいます。

弟子：この数年来、私は佛教のお寺のことに関わっています。法を学んでから法に反していると気づきましたが、どのように対処すべきか分かりません。私は執着を放下すべきだと分かっていますが、自分の責任をなかなか捨てることができません。どのように対処すべきか教えてください。

師：実は、これより簡単なことはありません。あなたはなぜ放下できないのでしょうか？ あなたは責任を放下できないと言っていますが、それは常人の基準であり、佛を修めることと関係があるでしょうか？ あなたに放下できないのは、常人の情です。この責任を佛が重んじるのでしょうか？ それでは、あなたは誰のために責任を負っているのでしょうか？ 宗教そのもののために責任を負っているのでしょうか？ あなたの責任は、人々を圓滿成就させることができるのでしょうか？！ あなたの責任は、自分自身を圓滿成就させることができるのでしょうか？ それができなければ、それに執着してどうするのでしょうか？ あなたは自分の真の圓滿成就のために、責任を負うべきではありませんか？ あなたは自分のいわゆる責任のために、一生執着し、大法とすれ違うのか、それとも本当にこの機会を手にして、自分に対して真の修煉と真の圓滿成就を追求するために責任を負うのでしょうか？ これはあまりに簡単なことではありませんか。有為のことは、決して圓滿成就できません。その寺の中で修め、あなたのそのいわゆる責任と、この心を取り除くことができなければ、佛はそれを見て心苦しくなります。そこで何らかの責任を負っているから、あなたは基準に達したと佛が思っていると思わないでください。佛は宗教を認めず、人の心だけを認めるのです。宗教は人間が作り出したもので、当時、イエスも釈迦牟尼も宗教を作っておらず、修煉の人の心だけを認めたのです。もちろん、修煉者が一緒になって修煉の環境を作ることができれば、それに越したことはありません。それは真に修煉し、圓滿成就して正果を得ることを第

一としています。環境や教会そのものに執着していれば、それは有為ではありませんか？ 多くのお寺を建て、多くの佛像を作ったので、将来きっと圓滿成就すると思っている人がいます。私に言わせれば、圓滿成就できません。常人の中でも多くの人が佛像を作っていますが、それは何でもなく、ただの仕事です。それは有為です。有為の法は幻のうたかたである、これは釈迦牟尼佛が説いたことです。考えが真に向上せず、頭が思想業力で溢れ、常に悪い考えが現れてくる一人の常人を佛のところに置くことは、一山のゴミを神、佛の前に置いているようなものです。許されることでしょうか？ 決して許されません。ですから、皆さんは修煉の中で、これらの汚いもの、良くないものを取り除き、純粹で清らかな身体に変え、さらに高い境地での考えを持つようになって、初めて佛の世界に行けるのです。これらのことをまだ放棄せず、これらの有為のことを放下しないとは、何と愚かなことでしょうか？！

弟子：先生はいつまで法を説き続けられるのでしょうか？

師：法が人間を正すことが終わるまでです。

弟子：本の中の「人間」、「人類」、「常人」の意味は違うのでしょうか？

師：同じです。ただ、使う場面が異なるだけで、意味は同じです。常人はつまり人間です。実はさらに高い境地での天人、つまり三界内の天人も含まれています。人類は人間であり、修煉しない

人は常人です。

弟子：修煉の過程で悟った超常的な理が、正しいかどうか分かりませんが、どうしたらいいのでしょうか？

師：超常的な理を悟った時に、きっと神聖で、大法の法理と一致した正念の昇華という感じがあります。さらに高い次元の法理は心で会得するしかありません。古代の人は「心領神会しんりょうしんかい」と言っていますが、つまり自分の頭で分かっても、人間の言葉で言い表すことができないということです。言ってしまうと、それが普通のものになり、常人の理と同じになると気づくのです。人間の言葉で話した途端に、言外の深みはなくなってしまいます。なぜでしょうか？ 高い次元の理は高い次元の思惟と言葉で表現するしかありません。ですから、学習者は自分の行動において、高い次元で悟った、人間より高い行為を常人に示してはいけません。人間はあくまでも人間であり、人間より高い理や行為を理解することはできません。

最大限に常人社会の状態に合わせて修煉することを遵守してください。あなたが悟ったさらなる高い次元の法理は、あなたの修煉での昇華であり、常人社会でその状態を表すためのものではありません。あなたがこの空間での法理が分かった時、他の空間での変化は非常に激しいのです。ミクロ的な粒子で構成された身体が変化すると、それは相当激しいのです。その上、その次元において、一気にすべての法理が分かるようになります。

弟子：修煉の中で見た他の空間の物体や生命ですが、彼らが良いものか悪いものかをどのように判断するのでしょうか？

師：修煉して間もない頃の人にとって、これは判断しにくいので、すぐにわきまえられるものではありません。しかも、多くの次元の高い空間の神は、法を正すことから逃避するために下りて来たのであり、さらに三界内の各空間において、多くの神は自らの境地より高い次元のことを知らないで、彼らもある程度迷いの中にいます。彼らの現れは人間にとって比較的善であり、人間からみればそれは善なるものです。しかし、彼のいる境地ではすでに基準に合わなくなり、ただ人間からみれば人間より善であると思われます。ですから、一部の学習者は執着の中で惑わされ、はっきり認識することができなくなります。どのように対処するのでしょうか？ 私は不二法門のことを皆さんに教えました。誰もこのようなことを相手にせず、何を見ても心が動じません。話をせず、全く相手にせず、見ることもしません。このようにするしかありません。彼らのすべてを避けます。何を教えられてもそれを聞きません。彼らの言うことをあなたが聞くように、彼らはあなたの機嫌をとり、明日の宝くじの番号を教えたりするかもしれません。このようにするかもしれません。もちろん、これらのことも偶然なことはなく、これはあなたの修煉の中の魔難で、あなたの人心を試練しているかもしれません。ですから、皆さんはくれぐれもこれらのことに気を付けてください。断固として彼らと接触しなければ問題ありません。なぜなら、その時点で皆さんは見極めることができないからです。

弟子：修煉者の幼い子供は医者に治療してもらう必要があるでしょうか？

師：修煉しない人なら、医者に診てもらうべきときはそうしなければなりません。なぜなら、常人が病気になれば、医者にかかるものだからです。私がここで言っているのは、真に修煉する人のことです。あなたの身体まで佛体に転化するのですが、これは医者にどのように治療してもらってもできないことです。しかし、多くの大法修煉者の家庭に子供がいますが、彼らは普通の子供ではないかもしれません。転生する前からこの家の人が将来大法を学ぶと知っていて、この家に転生したいと思っています。ですから、この子供は相当な身分かもしれません。このような場合、大人が煉功する時、すでに子供の分まで修めました。これは子供が自分で煉功できるようになるまで続きます。多くの場合はこの状況です。これは親が自分で判断しなければなりません。もし子供がこのような状況であるかどうか分からない場合、病院に連れて行っても間違いではありません。しかし、このことであなたの心も見えています。あなたにいろいろな考えと心の状態が現れます。このように話しましょう。つまり、もしあなたが固い決意を持つ大法修煉者であれば、人はそれぞれ運命があると知っているはずで、問題が起こるべきでない子供であれば、安易に問題を起こさせることはありません。往々にして、私が先ほど言った高い次元から来た子供は法を得に来たのであり、業力が全くなく、病気に罹るわけがありません。子供は大人の代わりに何かに耐えているのかもしれませんが。多くの場合はこの

情況です。しかし、これも絶対的なことではないので、具体的なことは皆さん自分で判断してください。

弟子：シンガポールの学習者は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：江蘇省の弟子は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：江蘇省無錫の靈山大佛は毎日、一万人以上の人に拜まれています。しかし、大佛に憑き物があるとされており、お腹に多くの骨壺があります。弟子たちはそこへ法を広めに行くことに対し議論しています。先生に教えていただきたいと思えます。

師：法を広めることは人に対して行なっているのであり、その大佛に対してではありません。皆さん考えてみてください。人間が骨壺を佛のお腹に入れたのです。これは良いことか、それとも悪いことをしているのでしょうか？ 和尚はなぜこのようなことをするのでしょうか？ 遺族がお金を払ったからです。和尚はお金のために、佛まで売り物にしています！ 現在はここまで乱れている時期なので、人々は佛を拜む時に誰を拜んでいるのでしょうか？ その骨壺を拜むのですか？！ ここまでおかしくなりました。死者は人間のせいで大きな罪を背負わされ、その家族と先祖にまで影響しています。

弟子：私は法輪と何らかの光景が見えましたが、法輪功の弟子と交流してから、それが直ちにすべて消えてしまいました。私は間違ったのでしょうか？

師：これは二つの方面から見べきです。もし歡喜心を抱いて他の人に話しているのであれば、消えてしまい、あなたに見させないようにしているかもしれません。なぜなら、あなたに神聖な光景を見せましたが、さらに努力して大法を確固として修煉する心や純粋な心があなたに現れず、かえって歡喜心が現れたので、もちろんあなたに見えないようにしたのです。なぜなら、あなたの修煉のために責任を負うべきだからです。もしあなたがそれを見て、歡喜心や顯示心が生じなければ、これが本当のことであり、他の学習者にも正念を固めて欲しいという考えで、他の人に話すのは問題ありません。話してはいけないのではなく、最も良くないのは、執着心を抱いて話すことです。

弟子：もし私たちの修煉が良くでき、圓滿成就する時、私たちはまだ若いかもしれません。その時、家族に対する責任を果たし続けるべきでしょうか？

師：このような執着を取り除かなければ、決して圓滿成就することはできません。あなたは常人の考えでこれらのことを考えています。皆さんに教えますが、私は皆さんの業を滅し、皆さんを見守っているだけではありません。もしあなたが正果を得るまで修煉したら、あなたの世界も豊かになります。私は多くのことをしてあげな

ればなりません。以前に犯した命をもって償わなければならないことや、殺した生命、各種の恩讐などはすべて私が解消して、多くのことをしてあげなければなりません。これらのことに執着していれば、それはあなたの修煉の道のりで大きな障碍になります。これらの人間の心を放下し、ひたすら修煉してください。圓滿成就になる前は、家族としての責任を果たさなければなりません。これは必ずそうあるべきです。

弟子：『聖書』の中で、イエスが教会で高利貸しの人に怒ったと書いてありますが、法輪大法は怒ってはいけないと要求しています。もしイエスが佛であれば、どのようにこれを理解するのでしょうか？

師：『聖書』はイエス本人が書いたのではなく、イエスの行為に対する人間の表現は決して正しくありません。高利貸しの人に厳しい態度をとったことがあるかもしれませんが、イエスは悪を憎み、悪事を働く人に対して厳しいのですが、本当に怒ることはありません。

弟子：上海の弟子は先生にご挨拶を申し上げます！ 先生が上海にいらっしゃることを心より望んでいます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：どのようにしたら、大道無形の各次元での現れをよりよく理解することができるのでしょうか？ なぜなら、私は輔導員の仕事をするとき、一部の学習者、学会の責任者と輔導員がそれぞれの

次元にいたので、法を広める仕事に対して共通認識をなかなか得られず、議論し、時間も精力も消耗したことがあります。これはそれぞれの理解と関係しているようです。

師：これはよく見られることです。中国大陸の多くの輔導員はすでに成長し、問題にぶつかれば、まず自分に問題があるのではないかと考え、ほぼ健全に修煉しています。しかし、一部の地区の輔導員は法を学んでからまだ日が浅く、またはそれほど精進しておらず、仕事が忙しかったので、問題にぶつかったとき議論し、自分の心に向かって探さないのです。なにか問題があると感じれば、まず自分のどこに問題があるかを考えるべきです。このようにすることができかどうかは、大法学習者を量る基準です。自分の出発点が間違っていないと思えば、穏やかな態度で相手に教えればいいのです。トラブルの当事者双方が皆このように自分に対処できれば、トラブルがあるでしょうか？ 何を議論するのでしょうか？ しかし、このように話しても、執着心を取り除くための議論はまだあります。時には相当激しいものになります。なぜなら、皆さんは修煉しており、まだ取り除かれていない心があり、気づいていないときや、自分を探すことを忘れるときもあるからです。態度や自分の観念に執着すれば、論争が起こる可能性があります。

弟子：大道無形の各次元での現れについて、どのように理解すればいいのでしょうか？

師：大法は今日、社会で大道無形の形式をとっています。いか

なる常人社会の形式も大法が広く伝わることに相応しくないので、私はいかなる形式もとりませんでした。学びたければ来ればいいのですが、学びたくなければ帰ればいいのです。自由です。もちろん、真に学ぶのであれば、あなたに責任を負います。しかし、このような責任の負い方は常人には見えないことであり、常人社会の空間では無形なのです。事務所もなく、金銭や物も蓄えません。すべての人は常人社会の一員であり、常人社会の仕事、勉強があり、各種の環境の中で生活しています。皆さんと常人との唯一の区別は、自分を修めていることであり、自分が修煉者であると皆さん自身は分かっています。常人は修煉していないので、時には修煉者を理解できません。学習者が中南海の國務院に行ったのですが、なぜこれらの人が急にやって来たのでしょうか？ また急に去っていったのでしょうか？ 彼らは社会の一員であり、形式がなく、一人の修煉している人にすぎません。社会の中の一員であり、自分の気持ちを表してからまた社会の中に戻り、組織形態を持っていません。しかし、このような状況であればあるほど、組織を作ることに慣れてきた人、組織されることに慣れてきた人々にかえって理解されなくなり、完備した組織を持っていると思われました。修煉者が行なったことは、現在の中国人には理解されにくいのです。ひいては、現在良い人を実践しているこれほど多くの人々がいることを全く信じていない人もいます。

弟子：白人が前回の文明によって残された人であれば、黄色人

種やその他の人種は……

師：前回の文明の時、当時の大陸プレートは現在と違っていました。しかし、おおよそ南米と北米の辺りに黄色人種が住んでいました。現在そこに住んでいるアメリカ・インディアンは黄色人種です。中国に住んでいる黄色人種にとって、当時最も中心的だった場所はカザフスタンでした。大洪水の後、新疆の砂漠一帯に移住しましたが、当時そこは土地が大変肥えていたのです。その後、次第に東へ移動していきました。厳密に言えば、インド人、エジプト人、ペルシア人、黄色人種、白人、黒人は近代の地球上の六大人種であり、その他は混血です。

弟子：先生の説法は『轉法輪』にある謎を解いていると思います。このように先生の各地での説法を長く聞いていると、これは自分の『轉法輪』に対する悟りになるのでしょうか？

師：皆さんに本当のことをお話します。人間には私の説法を聞く資格はありません。（拍手）人間のために説法するだけなら、如来佛一人がこの世に下りて来ればいいのです。私が説法している時、在席の中に見える人がいますが、異なる天体のすべての次元の生命が皆聞いています。私は人間に説法しているだけではありません。しかし、修煉の中で、きっと皆さんに修煉のためのものを残してあげます。私が法をすべて説き、すべてが明確になれば、修煉するものがなくなり、修煉にならないと心配しているようですが、この意味でしょうか？ そうではありません。皆さんに修煉のための

ものを残します。

弟子：新疆ウルムチの学習者は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：ももとの果位まで修煉するのでしょうか？

師：高い次元から来た場合は大体そうです。しかし、自分が誰であるか知っていますか？ あなたは高次元から来たのでしょうか？ 高次元から来たとしても、罪があつて落ちて来たのではないのでしょうか？ 自分がどこから来たのかあなたには全く分かりません。上から下りて来た生命の場合でも、数千年の輪廻転生、長い歳月の中で、先天の本来有しているすべての特性が失われるほど業力が大きくなりました。これほど強い人心を持って質問しないでください。

弟子：先生ご自身や先生の生活について、お話いただけますか？

師：あなたは現在まだ常人であり、出しているのは常人の質問です。私は自分について話したくありません。私が人間に与えたのは他でもなく、この法理です。私を普通の人間とみなしてください。私は他でもなく、人の形象を備えている人間であり、ここで皆さんに話をし、しかも人間の言葉を使って話しています。私にどれほどの能力があるかについて、それを見せすることもありませんし、皆さんもそれを見ることはできません。しかし、あなたの修煉に対して

私は責任を持ち、しかも責任を持つことができるのです。この点に関して、実践の中で学習者も体験したと思うので、多く話す必要はありません。未来の人は私の存在を知らないのです。もし、今日の学習者がすべて圓滿成就できれば、私は人間に法を説いたのではなく、神に説いたのです。修煉しない人は、来世、次の輪廻を経れば、何も分からなくなります。将来の人は私のことを知ってはいけません。同様に神話の物語として残るのです。ですから、私は人間に何かを残したくありません。生い立ちや私自身にまつわることなど話したくありません。他の人にも書かせたくありません。弟子として、彼らは将来私のことを知るようになります。圓滿成就したら私が一体どういう人なのかはつきり知るようになります。（拍手）

弟子：ニュージーランドの学習者は尊敬する師父にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：心性の向上と法理に対する認識には大きな差があります。法に対する認識が先行し、かなり高い境地に達していますが、実際の修煉では心性の向上が遅れ、時には非常に悪い状態になることもあります。このような状態で悟り得た理が偏ってしまうのではないかと心配しています。

師：実はこの点に気づいていることは、すでに修煉がかなり良くできているのです。常人は自分の誤りに気づくことができないのに

対し、あなたは修煉中の異なる状態に現れた差異に気づいています。実はあなたが思っているようなことはありません。法理に対する認識は通常すぐに理解できます。社会の現実の中で、人間がさまざまな利益や情への執着を、法理を理解してすぐに取り除けるのであれば、修煉する必要もなくなり、関を乗り越える必要もなくなります。何かに執着しているとき、法から言い訳を探すのであれば、それはきっと間違っています。求めずに法を学び、そこから分かったことは必ず正しい悟りです。

弟子：北京と米国の学習者は師父にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：修煉の中で色欲の業力が現れるときがありますが、どのようにそれを滅するのでしょうか？

師：夢の中で遭ったことは皆さんへの試練であり、普段の修煉の中でしっかり心を修めたかどうか、この関をしっかりと乗り越えたかを見るためです。一種の試練であり、この関を乗り越えることができるか、修煉がしっかりしたものであるかを見えています。その時だけ、本当の状況が現れてくるからです。その時、あなたの中にある何かを隠したい、ごまかしたい心がすべて眠ってしまったからです。良く行なうことができなければ、それを重視すべきです。何と言っても良く行なえなかったのです。普段の修煉が良ければ、夢の中できっと良く行ない、乗り越えることができます。

弟子：問題に直面したり、何かを考えたりするとき、いつも自分のことばかりを考えているように感じます。一つの根があるかのようで、どうしても取り除けず、とても悩んでいます。なぜ正覚の状態を保つことができないのでしょうか？

師：本当に素晴らしいのです！ あなたが取り除きたいこの心は私に見えています。これが修煉です。自分の私心、その根を完全に取り除くには過程が必要です。それは半生をかけて形成されたものだからです。あなたは修煉の中で必ずそれを取り除くことができると、私は信じています。これこそ「私」というものの根本です。これに気づき、修煉の中でそれを心から取り除こうと努力することは非常に素晴らしいことです。これこそが修煉なのです！

弟子：自分が精進しておらず、苦を嘗めることが苦手で、根性もないと感じていますが、苦を嘗める能力を強化する方法はあるのでしょうか？

師：本を多く読み、徐々に修煉の意志を固めることができれば、他のものを克服できるようになります。近道はありません。修煉はとりも直さずこのように修めるのです。これらのことに気づくのは非常に素晴らしいのです。それらを認識するのは常人にはできないことです。実は、自分に満足できないということ自体が修煉であり、そうしていくうちに徐々に能力が高まっていくのです。

弟子：今回、師父と法輪大法に対する海外のマスコミの間違っ

た報道を聞いた時、大法を守るために何かの行動をとりたいと思っていますが、しかし、心の中では彼らの行為を相手にする価値さえないと思っています。私の心の状態は正しいでしょうか？

師：他の人が大法を攻撃している時、それを自分に対する攻撃だと思わなければ、あなたは大法の一員ではありません。なぜそれほど多くの人が中南海の國務院に陳情に行ったのでしょうか？ 天津の事件では自分も同じように扱われたと思っているからです。警察が大法弟子を拘束したことで、自分も同じように拘束されたと感じています。なぜなら、彼も修煉者の一員であり、皆が同じ法を学んでいるからです。天津の学習者に対する迫害について、他の学習者が善意をもって関連部門に陳情するべきではないでしょうか？ マスコミの間違った報道に対して、マスコミにそれは間違っていると、真実を伝えればいいのです。大法に対する悪意の迫害を放任してはいけません。世の人々が法を得ることに影響してしまえば、それは由々しき一大事です。報道は互いに転載することができるので、この新聞社が報道したら、他の新聞社はそれを転載してしまいます。皆さんが自分の体験を話せば、説得力は報道より強いのです。私、李洪志が良いと言われても、私は気にしません。悪いと言われても、気に留めることはありません。常人は私の心を動かすことができません。しかし、学習者として大法を守ることはすべきことです。悪の一面を用いて争ってはいけません。善の心から本当の状況を話せば、すなわち法を守っていることになります。

弟子：深センのすべての大法弟子は師父にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：（一）奉国寺の原始六佛にある法身は、彼らの根本的な次元を表しているのか、それとも修煉中の次元を表しているのでしょうか？

師：佛はすでに佛になったため、修煉と次元のことはすでにありません。なぜこれを聞くのでしょうか？ これは大法の中のことでなく、修煉の向上とも関係ありません。

弟子：（二）原始六佛は先生がおっしゃった原始の生命なののでしょうか？

師：彼らの名号はすでに佛の特定の位なのです。原始と言ったのは名号の時間のことについて言ったのであり、入れ替わるうちに、最初の原始生命ではなくなったかもしれません。原始という概念は異なる次元、異なる境地において異なる認識があります。人間にとって人類の文明の歴史を超えれば、または数千年経てば、原始になると思っています。しかし、佛の目から見れば、それはただの一瞬にすぎません。高次元の生命にとって、彼らはそれほど原始ではなくなります。

弟子：（三）釈迦牟尼佛の像はなぜ西に向いているのでしょうか？

か？

師：あなたは佛教を修めていて、佛のことについて私に聞いてみたいのでしょうか？ 私は大法を説いているのであり、佛教と何の関係もありません。ここに座っていれば、それはあなたの縁なので、あなたの質問に答えてもいいのです。廟はどの方向に向いても建てられています。東に向いているのもあれば、西に向いているものや、南に向いているものもあります。その正殿が向いている方向に、その佛像も必ず同じ方向に向いています。これは何の意味もなく、人為的なものです。佛は実在する偉大な覚者ですが、あなたが言っているのはただの泥で作られた像です。佛を修める時、心を自分の真の向上に置くべきです。すべての有為のこと、または佛教そのものに執着することも修煉ではなく、障碍なのです。

弟子：真・善・忍は超物質でしょうか？ 彼らは原始の生命でしょうか？ それとも超原始生命なのでしょうか？

師：まだ佛教のことを言っています。ここに入ってきたのも縁です。ので、お答えしましょう。真・善・忍は一切すべての宇宙の特性であり、宇宙の法はまさに真・善・忍から生じたのです。下へ行けば行くほど、法は複雑になり、要求も多くなり、あたかもピラミッドのようです。この大法は、宇宙の衆生に異なる次元の生存環境を切り開き、異なる次元の佛、道、神、そして人、魔、およびそのほかの衆生を造り出し、その中に天と地、一切の物質も含まれています。この宇宙の複雑さは人間の言葉ではっきりと表現しきれ

ものではありません。それはさらに異なる状態をもって、衆生が異なる次元で生存するための要素を提供しています。例えば、相生相克、陰陽などなど、多くのものはこの宇宙大法から派生してきたのです。(拍手)

弟子：交流会の前に事務局に問い合わせの電話をかけ、参加についていくつかの要件を確認しました。電話に出た人から「あなたは法輪功の弟子ですか」と聞かれ、私はすぐに答えることができませんでした。私は独学で、すでに一年になります。李先生にお伺いしたいのですが、私はあなたの弟子といえるのでしょうか？

師：あなたが本当に学んでいるなら、たとえ独学でも、あなたは私の弟子です。(拍手) あなたの变化と私が普段あなたに与えた啓示は、すでにこのことを教えたのではありませんか？ 皆さんと一緒に修煉する環境がないため、多くのことを悟ることはできませんが、修煉していないということではありません。学習者と一緒によく煉功すれば、向上は速くなります。

弟子：一九九二年以降、各宗教の神々はこの世のことを手放したと先生はおっしゃいましたが、私の悟性が低いため、その意味が分かりません。どうかご説明願います。

師：このことは私が数回の説法の中で言及しました。今回、皆さんに説法しに来たのは、単に人を済度するだけでなく、宇宙で法を正しており、人類にまで及んでいるからです。つまり、皆さんが

かつて信仰していた神も、今回、法を正す中で新たに位置を配置し直されています。人間はなおさらそうです。彼らがどうしてまだ人類のことに構うのでしょうか。

弟子：安徽省合肥市、瀋陽、延辺の大法弟子は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：大法に対して良くないことを言っている人と争えば、大法の真・善・忍の「忍」を守らなかったことになるのでしょうか？ 人と争うのも執着心でしょうか？

師：善の心、善意から相手に道理を説明し、教えればいいのです。どうしても聞いてくれないければ無理にすることはありません。実はあなたはまだ意識していませんが、あなたがその人に大法の法理を話している時、その人に法を説いているのであり、法を伝え、彼を助け済度しているのです！ 聞くかどうかは本人の選択であり、なぜ争う必要があるのでしょうか？ 善の念に基づいてこのすべてに対処すれば効果はもっと良くなります。

弟子：法を学ぶ中で、時にある法理を悟りましたが、それを話そうとした時、それが間違っていると感じてしまいます。この感覚はますますはつきりしてきています。

師：そうですよ！ 先ほど言ったではありませんか？ 心で会得

するしかなく、言葉で表現することはできません。常人の言葉でそれを話すと、直ちに常人と同じレベルの道理になってしまいます。

弟子：修煉者の女性は男性より多いのでしょうか？

師：現在の女性はより速く大法を認識しているようですね。これは本当に良いことです。

弟子：私はもともと子供が好きで、子供が欲しいとも思っていますが、大法に接してから、「人類はこれほどレベルが低く、道徳がここまで腐敗堕落しているので、何のために子供を生んで、その純粋な心を汚染させるのか？」と考えるようになりました。

師：皆さんに教えますが、あなたが生命を造ったのではなく、その生命は人間の胎児になり転生して来るのです。業力があれば自分で持ってきます。あなたのところに生まれなければ、他の人のところに生まれてきます。あなたは大法の学習者なのに、まだ子供が汚染されるのを恐れるのですか？

弟子：私は民族系の幼稚園の教師です。私の仕事は各幼稚園に行き、中国の文化や伝統を教えることです。先生の五式の功法を子供たちに教えたいのですが、そうしてもよろしいでしょうか？

師：とても良いことです。実際、ある地域では園長から先生まで皆、煉功しており、子供たちも煉功しています。子供には執着がないので、そこに座ると、まあ！素晴らしい、純粋で清らかそのもの

です。本当に素晴らしいのです。これはもちろん良いことです。大法の法理で子供を教育すれば、彼らの一生にわたって受益するのは計り知れません。

弟子：キリスト教、佛教などを誠心誠意に修め、法輪大法を得る機会のない人は、その将来はどうなるでしょうか？

師：私がこのことをする前に、彼らの神はすでに彼らの中の真に濟度できる人に明示しました。信じる人もいれば信じない人もいます。私はそれがどういう宗教なのか、その人の地位がどれくらい高いのか、その人が誰なのかを見ておらず、ただ人心を見るだけです。いかなる人も私の前ではまず人間であり、私は人の心しか見ていません。大法を得たくなければ、私はあなたを手放しますが、得たければ、あなたを濟度します。こういうことです！ 形式や職位、信仰しているものを見ません。（拍手）

弟子：大法を修めてすでに数年経ちましたが、この数か月間、皆さんと交流している時、話し出すと止まらない学習者を見ていると、ますます話したくなくなります。師父にお聞きしますが、この状態は正しいでしょうか？

師：その人が延々と話し続け、止まらないとき、あなたはますます聞きたくなく、いらいらしていれば、あなたに何らかの心があるということです！ 彼は話せば話すほど止まらなくなり、まるであなたに向かって言っているかのようですが、実際にはあなたに向かって

直接話しているわけではありません。(拍手) つまり、あなたの心をさらけ出しています。実はすでにさらけ出されているのですが、ただ自分が言い訳をして、その人が延々としゃべり続けていると言っています。どんなことに遭っても、まず自分を見るべきだと私は皆さんに教えたではありませんか？ あなたの何らかの心が現れたのではないのでしょうか？ 皆さんは一人の修煉者であり、超常的な人ですが、なぜ常人の良くないところを見て、常人と比べるのでしょうか？ その人は修煉者ですが、彼も常人の中で修煉していて、まだ取り除いていない心があり、まだ常人としての現れが残っています。これらの心がなければ、その人は佛や神になるのではありませんか？ この道理でしょう！ ですから、学習者の間で何か問題が起こると、すぐに「あの人はなんて修煉ができていないのか」と言いますが、自分を省みないのです。説法の中ですでに皆さんに教えました。二人の間にトラブルが発生したとき、それを見た第三者まで「あ、彼らの間に起きたトラブルを、なぜ私に見させたのか、私に何かの心があるのではないか、私にもこのような問題が存在しているのではないか」と自分を考えるべきです。ですから、修煉は真に自分に対して責任を持ち、自分を見るべきです。しかし、集団で法を学ぶ時に大法でないこと、または大法と関係のないことを長々としゃべっている学習者についても言及したいと思います。学習者と学習者の修煉を妨害していますので、くれぐれも注意してください。こういう場合、はっきりと指摘すべきです。

弟子：修煉者の利己的な一面を見て、耐え難いのです。

師：それなら、あなたにもまた一つの執着心があります。誰にも修煉者の心を動かすことはできないはずです。彼の利己心が現れたのを見ましたが、それが現れたのは、あなたがその人に教え、その心を気づかせることによって取り除いてもらうためだったかもしれません。あなたはかえって彼の私心に動かされ、耐え難くなってしまったとしたら、あなたにその心がないと言えますか？ そうでしょう。

弟子：自分の心より魔が生じれば、なぜ底まで落ち、これ以上修煉できなくなるのでしょうか？

師：これは一種の形容です。もし自分の心より魔が生じ挽回できない程度にまで至ったら、底まで落ちてしまったということを言っています。もし気づくことができれば、まだ挽回の余地があります。法理から私は皆さんに自分の心より魔が生じることの危険性を教えています。

弟子：修煉者は教育システムを改善して、社会の人々が大法をより受け入れやすくすることができるのでしょうか？

師：多くの学習者は大法が良いと思い、すべての人心を変えることができ、人々を向上させ、社会を真に最も良い状態、道徳の高尚な社会にすることができると思っています。そのため、「もし、社会に一般的に受け入れられ、さらに多くの人々がこのようにすれば、

この社会はなんと素晴らしくなるだろう!」と多くの学習者や修煉しない常人は思うのです。実はあなたの心は常人社会に置かれています。私はこのようにあなたに教えるしかありません。なぜなら、あなたは法に対してまだそこまで深い認識に達していないからです。私があなたにこう伝えるしかないのは、あなたがまだ法に対して十分に深い理解を持っておらず、私が伝えているこの法が常人社会をどうするためのものではなく、修煉者に法を説き、修煉者を済度するためのものであることをはっきりと理解していないからです。常人社会は取りも直さず常人社会で、もし本当に常人の中の高官が、大法の善の法理をもって、日増しに滑落している社会の道徳を変えられることができれば、それは人の心の善の現れであり、私は反対しません。なぜなら、大法が伝え出されたのは人のために良いことをするからです。こういうことです。それは常人のことであり、将来、法が人間を正す時になれば、それは次の段階のことです。

弟子：台湾のすべての学習者は先生にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：いくつかの質問についてお伺いしたいと思います。人間の能力の優劣は元神に生まれつき備わっているのか、それともそれぞれの徳と業力によって按排されたのでしょうか？

師：あなたが言っている能力には二種類あります。一つは常人が言う賢いということです。これは修煉の中では何でもありません。か

えって強い障碍なのです。もう一つは修煉の中で現れる常人を越える能力のことで、これには先天的な要素もあれば、後天的な要素もあります。しかし、修煉の中ではこれらは次元を量る基準とされていません。その人の修煉がどうなっているのか、法を認識する能力を見る際、その人の根基を見るのです。人の先天的な本性は長い年月の中で、生々世々の輪廻転生の中で埋没されました。それぞれの本性がまだどれくらい現れるかは、すなわちその人のいわゆる根基と悟性によるのです。

弟子：世界各地に昔から残っている佛道神の各種の荘厳な形象は、彫刻や肖像画によって表現されていますが、どのような形でこの世に残ったのでしょうか？

師：あなたが言っているのは、あの佛の形象を人間がどうして知ったのかということですね。人類の道徳と文明が非常に良かった時期の人間と、道徳が衰えた時期の人間には大きな違いがあります。人類社会の道徳が高ければ、神が人間に示した宇宙の真相も多いのです。これは社会全体によってもたらされた状態です。今日の社会はそれができません。なぜなら、今日の社会が信仰しているのは科学であり、神ではないので、ますます見えなくなったからです。その上、この科学は宇宙人が人間のために作り出したものであり、宇宙人もこの空間の生命です。ただ宇宙人は他の星にいる生命です。フランスのルーブル宮にある壁画の多くは神のことを描いており、非常に真に迫っています。私はそれを見て、確かにその通り

だと思っています。しかし、それはキリスト教の全盛期に残ったものであり、つまり人類の道徳が最も良い時期、最も神を信じている時期に残ったのです。また多くの芸術家は敬虔なキリスト教徒でもあり、そして、神は彼にそれを見せるのです。彼もそれが見えたのです。皆さんも知っているように、芸術家の瞬間記憶力は非常に優れており、神の光景を見てから、すぐそれを描き出しました。真実の状況を描いており、非常に真に迫っていると思います。本当にその通りです。多くの人がこのような壁画を見たら、神聖で敬慕の気持ち、つまり偉大な神に対する敬慕の念が湧いてきます。佛像はこのように人類に残されたのです。

弟子：修煉して圓滿成就した物質は、上の世界にとって非常に貴重なものだというのは、返本帰真にさらに修煉の過程を加えることを指しているのでしょうか？

師：このような関連付けは全く不適切です。修煉の過程はつまり返本帰真です。「圓滿成就した物質は上の世界にとって非常に貴重なものになる」とは、筋の通らない話です。あなたが圓滿成就した境地を超えたさらに次元の高い神にとって、貴重なものになるとは限りません。さらにレベルの高い神は、それが土だと思っています。実は人類社会ですが、宇宙の良くないものはすべてここに落ちて来ています。

弟子：キリスト教徒は大法を修煉することができるのでしょうか？

師：先ほども言いましたが、つまり神は宗教を全く重視しておらず、それは人間が作り出したものです。イエスの在世中、教会はなく、キリスト教もありませんでした。釈迦牟尼の在世中は、お寺もなかったのですが、人間によって作り出されたのです。釈迦牟尼の在世中は経書がなく、イエスの在世中は『聖書』もありませんでした。後の人が当時の彼らの話を思い出して書いたものです。

ですから、佛、神は人間が作った形式を全く重視していません。形式を重視して何の役に立つのでしょうか？ 宗教は人類にとって悪いものではありませんが、その形式そのものに執着するのであれば、それは神佛の真の弟子ではありません。皆さんも知っているように、文化大革命の時、お寺が壊されましたが、その時、佛はなぜ手を出さなかったのでしょうか？ 手を出して何の役に立つのでしょうか？ どんな人でもお寺に行って、何でも求めています。佛に頼みごとをする人は修煉しているわけではありません。佛を拝む目的は後継ぎが生まれ、大金持ちになり、加護されて災いや難が減されるようになるためです。佛はあなたにこれらのことを叶えてあげるためにいるのでしょうか？ 佛は根本から衆生が済度されるように、あなたを天国に済度しようとしています。あなたは常人の中の安逸を求めています。ですから、佛に対する心、佛に求める心は最も良くない心であり、佛につらい思いをさせるのです。人間は自分が何をしているか知らず、人間の情で佛に対処しています。「佛や菩薩は良い、慈悲深いと私が言ったから、佛や菩薩は私の願いを叶えるべきです。佛が良いと私が言ったから、佛はきっと喜んでくれます」。人

間はこのように言えば佛が喜んでくれると思っています。人間の心が佛の心を動かすことができると思っています。幾らかのお世辞を言えば、佛を喜ばせることができると思っていますが、何と馬鹿馬鹿しい話でしょう。このような人が佛像を拜んでいます、佛はまだそこにいられるでしょうか？ それを聞いて耳障りに感じ、佛はとっくにそこにいなくなっているのです。佛がその像にいなければ、世を乱す邪悪な霊体がやって来て供養を受けようとします。では、人間は一体何を拜んでいるのでしょうか？ 皆さん考えてみてください。このお寺を何のために残すのでしょうか。人間がそれを壊さなければ、佛は雷を落としてそれを壊すのです。この道理ではありませんか？ ですから、神は人の心だけを見えています。あなたの心が修煉の基準に達することができなければ、佛教や宗教を守って何の役に立つのでしょうか。それは人間が作り出したものです。あなたが守っているのは宗教であり、宗教そのものに執着しています。その宗教を守っていれば、佛になり、神になり、天国に行けると思っているのですか？ それは笑い話ではありませんか？

弟子：キリスト教と法輪大法はほとんど違いがなく、東洋と西洋の違いだけなのではないでしょうか？

師：それは大きな違いがあります。法輪大法は宇宙を造成した法であり、中にすべての衆生、人間、神、天地と万事万物が含まれています。すべての神は宇宙大法によって成就されたのです。『轉法輪』という本を読んでみてください。この本の中にこれらのことに

ついて私は明白に説きました。本を読んでください。英語版の『轉法輪』もあります。

弟子：どうか私の質問にお答えください。私は修煉していますが、この三年余りの間、現れた難を簡単に乗り越えてきました。しかし、昨年初めて関が現れました。血便が数か月続いています。これはなぜでしょうか？ 現在、すでに身体に影響しています。これで修煉して高い次元に到達することができるのでしょうか？

師：皆さんはもう分かったと思います。この質問自体に問題があります。まだ今までの三年間のように何もなく修煉したいのでしょうか？ この三年間本当に精進したのでしょうか？ 本当に自分を修煉者として扱ったのでしょうか？ この基準に達したのでしょうか？ 時には心の中で家のことを法よりも大事に考え、考えているのは金儲けのことで、肉親に対する執着を法よりも重視しています。自分の業力を減したくなく、苦を嘗めたくないということでしたら、真に修煉している弟子でしょうか？ このようにして十年修煉しても、何も変えることはできません。私が本当に高い次元へあなたを導き、身体を浄化し始めると、以前から溜まっていた瘀血おけつや、廃血、良くないものが体外に排出されます。しかし、それをすぐに身体の問題だと考えてしまいました。正念を固めることができず、これが修煉の中で師父が身体を浄化していることだと信じないのです。修煉は非常に厳粛であり、それを病気だと思ってしまうと、私はどのようにこの問題を見るのでしょうか？ これは関を乗り越えているのでしょ

うか？ 心がまだ固まっています。私はあなたの身体を浄化しているのです、本来なら良いことです。誰がこのようなことをしてあげられるのでしょうか？ あなたが修煉したいから、あなたにそうしてあげたのではありませんか？ あなたはこのことに対して正しく認識することができていません。今までのようにゆっくり修煉し、精進することはできません。これらのことを法から認識できなければ、身体の浄化という過程は長引き、なかなか終わりません。ずっとこの状態が数か月続きました。それによって考えがますます不安定になり、時間が経つにつれて困難がますます大きく感じられるようになりました。「どうしてこんなに長引いているのか、まだ乗り越えられないのか」と、さらに乗り越えられないように思えてきます。「この修煉は本当に効果があるのだろうか？ 先生は私のことを構ってくれていないのでは？ 一体どうなっているのか？ すでに身体にまで影響が出ている」と、心が動揺し始めます。この問題において、あなたは自分を煉功者とみなしていません。

多くの具体的なことについて、私は皆さんに説きたくありません。皆さん考えてみてください。多くの人が大法を修めてから、不治の病や重病を患う人は皆、治りました。なぜなら、病に対する執着がなく精進したからです。「病院で死を宣告されたが、もう死を恐れない。今日大法を得たので修めよう！ 得られる分だけでいい、ひたすら修めよう！ 煉功しよう！」と自分の病気を全く考えていません。知らないうちに病気がなくなりました。なぜなら、病気に対していかなる執着もないからです。一方、重病を患っていた人、あ

るいは不治の病の患者の中には、そのまま亡くなった人もいます。なぜでしょうか？ 彼らは完全に病気を治すために来ており、練功の中で自分の執着を放下できなかつたからです。「あの人は法輪功を煉って不治の病が治ったので、私も煉功したらきっと治る！ 私が煉功しに来たので、先生はきっと私の面倒を見てくださる！」とと思っています。「本を読んで煉功すれば、先生はきっと私の病気を取り除いてくださる」とと思っています。心の中でほんの少し足りないだけです。その人はまだ「先生はきっと私の病を取り除いてくださる」とと思っています。表面上、皆さんと一緒に修めており、本を読んでいます、病のために読んでいるのではありませんか？ 私はその人の本質を見るのです！ 修煉は厳粛なことです。あなたは佛をあざむいているのでしょうか？ 師父をあざむいているのでしょうか？ いや、それは自分自身をあざむいているのです。本質が変わらなければ真に修煉していると言えるのでしょうか？ なぜ学習者は夢の中で試練が現れるのでしょうか？ 自分を偽るすべての心が寝てしまった時に、あなたの状態を見るためです。真に修煉者の基準に到達しなければなりません。この道理ではありませんか？ 大法を学んでいます、まだ精進していません。くれぐれもこの機会を逃さないようにしてください。多くの人は法を得ることさえできないのです。

弟子：どうして私が集団煉功に参加すると、配偶者の機嫌が悪くなるのでしょうか？

師：あなたの業力によって引き起こされたことです。人間は以前、生々世々に多くの借りを作りました。修煉したからと言って、それを返さなくてもよくなり、悠然と神になることが許されるのでしょうか？これを神と言えるのでしょうか？造った業を認めない。これではいけないでしょう！神は一人の人間の生命を見る時、その人の一生だけを見るわけではありません。一生一生の輪廻転生はあたかも一日一日過ごしているかのようです。朝、目が覚めたら、昨日したことを認めなくなる、それではいけません。そうではありませんか？神はあなたの生命の全体を見ています。あなたがどの段階で何をしたのか、すべて見えるのです。

弟子：どうすれば心の容量を大きくすることができるのでしょうか？

師：修煉の中で自然に大きくなっていきます。これは意識してできることではありません。執着を多く放下すればするほど、心が広くなり、物事に対して度量が大きくなります。

弟子：夢の中で、師父から四つのガラスのコップが送られてきましたが、一つだけは良いものでした。次の日に自分に四人の娘がいるという夢を見ましたが、一人だけ生き残りました。他の修煉者の悟りは、私が師父から与えられたものの四分の一しか得ることができなかったというのですが、正しいのでしょうか？

師：あなたに悟らせるものなので、私は話してはいけません。話せば、私自身に悟らせるものになってしまうではありませんか？

弟子：佛の境地や次元に到達すると、まだ主元神と副元神があるのでしょうか？

師：その時はないのです。私は『轉法輪』の中で説いたではありませんか。つまり、圓滿成就したら、副元神は護法、またはその他の形として存在するしかないということです。

弟子：中国は修煉の良い環境ですが、オーストラリアでしばらく生活すると、修煉の効果に影響するのでしょうか？

師：影響することはありません。修めていれば、どこにいても同じです。

弟子：一時間坐禅する時、多くの場合時間が長いと感じ、痛みに耐えながら坐禅しますが、業を滅する時は坐禅の時間が速く感じられ、すぐ終わってしまいます。しかも感じ方も違います。この情況は正しいのでしょうか？

師：これはあなたが煉功する時に現れた状態です。皆、自然に現れてきた状態です。

弟子：業を滅している時に坐禅すれば、両方業が滅されているのでしょうか？

師：両方とは何ですか？ 修煉してできたその部分は痛くありません。身体の本の二本の脚を指しているのであれば、それはもちろん両方痛くなります。長く座ると、脚だけでなく、腰も痛くなり、腰が

痺れたり、心が落ち着かなくなったり、吐き気がしたりします。皆、現れてきます。その筋骨を労せしめ、その心志を苦しめるからです！脚が痛くなるのはただ身体が耐えることだけで、坐禅すると同時に心も落ち着かなくなります！崩そうとばかり考えてしまいます。多くの人にこのような経験があります。苦しめば業が減されるのです。

弟子：先生にお目にかかれて大変光栄です。お聞きしたいことがあります。先生は不二法門について言及されましたが、普段、佛経と書籍を読めば、私のような低い次元の学習者に役立つと思います。徐々に基準に達していきます。佛教も佛法だからです。これは正しいでしょうか？

師：あなたの考えは正しくありません。大法と佛教は同じではありません。『轉法輪』を多く読んでください。あなたに話したいことが本当にたくさんあり、あなたが知りたいこともたくさんありますが、今日の時間は足りません。私はここで修煉する弟子に異なる次元で修煉している時に遭った問題について説いています。修煉したければ、本を読んでみてください。『轉法輪』を読んでから決めればいいのです。修めるのか、佛教の經書を読むのか、自分で決めてください。大法はすべてのいわゆる宗教とは違います。

弟子：先生にお会いして、感情が非常に高ぶっています。何も話せなくなり、何かを話したいのですが、何を話せばいいかわかりません。これは主意識がはっきりしていないのか、それとも人間の

情が強いのでしょうか？

師：どちらでもありません。あなただけでなく、多くの学習者は私に会うと、話すことがなくなります。なぜなら、こういう時、あなたが修煉してできたその部分が活発になったからです。その境地の法理を修煉してできたその一面は何でも知っています。ですから、私に会ったら、聞きたいことがなくなりました。師父は皆さんに多くのことをしましたが、皆さんの分かっている一面はそれを知っています。表面上、皆さんに法理を説いただけですが、皆さんの他の面における真の向上のために、業を滅することを含む多くのことをしました。皆さんはそれが見える一面を持っています。ですから、私に会うと泣きたくなります。皆さんが修煉してまだできていない一面はその理由を知りません。この状態です。なぜなら、師父が皆さんのために何をしたのか言葉では表現できないと皆さんは分かっているからです。この救いようのない乱れた世において、人心と道徳が急落している状態の中で、皆さんの業を消し、多くのものを与えましたが、この機会がなければ、してあげる人はいないのです。ですから、皆さんの他の空間にある一面はそれが見えました。この状態です。(拍手)

弟子：お聞きしますが、どうすれば自分が法を得たかどうか分かりますか？ かつて糖尿病でコレステロールも高かったのですが、法輪功を修煉してからすべてが良くなりました。これは法を得たからでしょうか？

師：それこそ、私があなを弟子として扱った証拠ではありませんか？ 修煉は、まず身体を調整した後で、正式な修煉の段階に入ります。あなたはすでに変化の真っ只中にいるのです。私があなを弟子として扱わなければ、そのような変化はありません。まさに法の中で、すでに変化しているのではありませんか？ 多く本を読み、法を学んで精進しましょう。

弟子：修煉中に、煉功の口訣<sup>くけつ</sup>を唱えながら煉功してもいいでしょうか？

師：口訣は煉功の前に念じればいいのです。煉功中はそうする必要はなく、何も考えないのが最もいいのです。

弟子：最近入って来たばかりの学習者は、すでに数年も修煉した弟子と一緒に圓滿成就することができるでしょうか？ 一部の年配者は教育レベルに限りがあり、また自分自身の要因もあり、法を理解する力が弱いのです。彼らの圓滿成就をどのように見るべきでしょうか？

師：年配者を軽くみてはいけません。誰であってもその精進の程度を見るのです。このように年を見てはいけません。私はあなたに法を得させた以上、あなたに十分な時間を与えるのです。しかし、精進することができず、自分を煉功者とみなすことができなければ、すべては台無しになってしまいます。私があなたに与えた時間は、あなたが精進していくための十分な時間です。修煉していても修煉

していないような時間を与えているのではありません。

弟子：子供が生まれて三日後、黒い服を着て礼帽を被った白い髭の外国の老人が、子供に布団をかけているのを見ました。私の一家はすべて大法を修煉しているのです、この外国の老人ではなく、先生の法身が現れるはずだと思います。理解できないので説明していただけないでしょうか？

師：私は異なる次元に異なる形象を持っており、異なる次元の異なる天国も持っています。その上、子供がどこから法を得に来たのか、何らかの神に見守られているのではないか、このすべてをあなたに教えてはいけません。ひたすら修煉してください。これらを見た以上さらに精進すべきです。

弟子：大法から受益した白人の弟子には、自ら進んで自分の民族の同胞に大法を紹介して欲しいと願っています。

師：すべての大法弟子は白人であっても、華人であっても、他の民族の人であっても、修煉の中で自分が何をすべきか分かっています。

弟子：私はオーストラリアに来て四か月かけて、やっと煉功点を見つけました。そこにいる学習者たちは皆、見覚えのある顔でした。以前に会ったことはないのです。交流会で会った大法修煉者も、以前会ったことがあるように感じ、人見知りすることは全くありません。

ん。これはなぜでしょうか？

師：それは当然のことです。大法弟子が修煉しているのは同じ法であり、皆、大法の中で修煉しています。修煉して良くできた部分はお互いに知り合っています。また互いに前世で知り合っていたかもしれません。

弟子：頭の中がいつも真っ白になります。「あなたは法輪大法が良いと言いながら、なぜ何も覚えていないのですか？」といつも人に聞かれます。

師：修煉して良くなった部分、はっきり分かった部分は隔離されており、分かっていない部分はまだ修煉ができていない部分です。あなたを妨害するものが再び作用しないようにしてください。

弟子：子供の時から劣等感があり、これも取り除くべき執着心でしょうか？

師：そうです。それを取り除きましょう。今あなたは最も幸せな宇宙の生命で、大法の学習者であり、天上の神まであなたのことを羨ましく思っているのに、まだ何に対して劣等感を持つ必要があるでしょうか。

二日間の交流会はいよいよ終わります。この法会を通じて、皆さんはある程度向上したと思います。しかも、今回の法会は非常に円満に行なわれ、予期通りの効果を取めました。今回の法会を通じ

て、すべての学習者は自分の不足を見出し、今後の修煉の中で、絶えず精進し、修煉の決意を固め、法会の効果を着実なものにし、これが交流会を開く目的です。また、法会を通じて、皆さんはそれを一種の原動力として、今後の修煉の中で自分に対して責任を負うように期待しています。在席の中に新しい学習者が多く、大法に対してまだそれほど認識していない人もいます。この門に入り、このすべてを見たので、本を読んで少し調べて欲しいと思います。なぜこれほど多くの方が学び、なぜこれほど多くの方が修めているのでしょうか？ この場において、あなたもその和やかな雰囲気を感じたと思います。これは現在、いかなる状況、いかなる環境の中でも見つけることはできません。

私はこのことをする時、人々に責任を持ち、社会に責任を持つことを念頭に置いてきました。社会に厄介なことをもたらすことはなおさらありません。いかなる地区においても、私たちの学習者は良い人として振る舞うに違いありません。私たちはどんなトラブルや困難に遭っても、善の心から善意を持って相手に説明すべきであり、決して悪の一面を作用させてはいけません。

この法会はもうすぐ終わりますが、今後皆さんがさらに精進するよう期待しています。今回の法会の後は、法を学びに来る学習者がさらに増えることでしょう。今までの成果を受け継ぎ、今後に活かしましょう。皆さんはきつとうまくやれると私は思います。最後に、皆さんが絶えず精進し、一日も早く圓滿成就するよう期待しています！（拍手）